

駿建

2003年新学期号 Vol.31 No.1 日本大学工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

新たな出発の時にあたって！

片桐正夫

目下あなたは何を期待して大学に入りましたか？ あ
るいは学んでいますか？ おそらく多くの人は、とりあ
えず今希望している専門分野の知識を身につけること
に加えて、自分の生きがい、やりたいこと、人生の目的
などについての答えを見つけることと考えているのでは
ないでしょうか。確かにそのように考えることは極めて
当然のことであり、一応正しいことでしょう。しかし、
この考え方が真に正しくなる為には、2つの問題につ
いて考えておかねばなりません。

まず専攻学科の決定が、事前にどれだけ自分探しと
自問自答へのエネルギーを費やしたのかということ。
つまり、これまでの人生で体験してきたこと、学んだ
こと、様々なアドバイス等々が混然一体となって形
成された意識にもとづいた結果であるのかどうか、
ということです。

とにかく入学して色々やっているうちに何か見つ
かるだろうと考えているとしたら、とんだおかし
な道であると言わざるを得ません。それでは全く
受身の対応であって自分がなくなってしまいま
す。そのようなことだと、あとになって迷い
が出たり、どうもこの道は自分には向
いていないのではないかということになり、
迷い道に入ってしまうということになり
ます。つまり自分の側に自分の人生を
どう生きたいのかというイメージ戦略が
なければ、自分がいない他人任せの
人生計画になってしまうか、場当たり
的な計画（戦術）の継ぎ足し人生にな
ってしまう恐れがあるということです。

次に重要なことは、『動くこと』という努力です。
動くことから全ては始まり、動かなければ何も
始まらないということであり、大学生活も
ムダになってしまうかもしれないとい
うことです。

文明の成果は私たちがをどんどん動かなく
ても生活していける方向にいざなってい
ます。ついに教育ですら、インターネット
で結んでわざわざ教室に集まって受講
しなくても物理的には成り立つシステ
ムが現実のものとなっています。原
子力エネルギーもインターネットを
始めとする通信手段も我々の生活に
不可欠のツールになっています。

しかし、これらの文明の成果は人間にと
って全て完璧

で副作用が全くないかといえば、そう
ではありません。実は大変な副作用
をもつ可能性があります。動物とし
ての人間の機能の限界と、文明の
成果との間のバランスが取れてい
る限りは直接問題化しないでしょう
が、その実、見えないところで、
私にいわせれば深刻な問題を醸
成しつつあるということです。

そのひとつが、人間の動物としての
生存実感が希薄になり、個々人が
群れとして有機的に生存してゆく
機能が低下してゆくことでありま
す。その結果、これまでの常識で
は計り知れない事件が起きたり、
人との付き合いをなんとなくう
っとうしく感じる気分が、自分
の中に広がっていきなりすること
になるのです。

大分前にヒットした「2001年宇宙
の旅」と日本で題された映画の中
で、“ハル”と命名されている宇
宙船の頭脳となっているコンピ
ューターが、宇宙船をハイジャ
ックして乗組員を排除しようとし
る話がありましたが、創造した
人間の側にツールをコントロール
するだけの主体的な意思と能力
が低下すると実際に同様の現象
が起きてしまうでしょう。

このような副作用を抑える有効な
手段が『動くこと』、つまり実
験を出来るだけ多くすること
であると思います。

ちょっと気を許すと、どんどんバー
チャル空間に入り込んでゆく自分
を、実体空間に置くよう務める
ことが、今の私たちにはとても
重要であると思います。21世紀
に生きている私たちも永い人類
の歴史の中で見れば、まだまだ
歴史時代の人々と生物体として
は異なっているとはいえませ
ん。その意味で実験に裏打ちさ
れている思考こそ、まだまだ必
要なのだと思います。昔から、
“百聞は一見にしかず”という
言葉がありますが、正にこの
ことの大切さを昔の人ですら
説いていたのだと思います。

今これをサイゴンの大衆食堂の
片隅で書いています。ハノイ
からフエ、ダナン、サイゴン
と都市と歴史遺跡と建築と人
々の生活を見ている。これから
カンボジアのシェムリアップ
（アンコールの町）へ向かいま
す。いつも思うことですが、
アジアは激しく胎動し燃えて
いるのが実感です。中国の
エネルギー、台湾・韓国のエ

エネルギーもここではピンピンと肌に伝わってきます。

また欧米人の姿の多いことも見逃せないことです。東京などよりもはるかに多くのそれらの人々がベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、マレーシア、それにフィリピンやインドネシアに飛来してきて、アジアでありながら、日本人よりもはるかに我が物顔で動き回っています。そんな中で、我が建設界はO.D.A.がらみが多いとはいうものの、そこここに技術力を発揮して、活躍している場面に出会います。もちろんこれを手放しで喜んでいるわけではありませんが、21世紀の日本の建設界の生き方を考える上でのヒントがたくさんあると思います。アジアに依存し、共存共栄を図っているのは、農業や自動車、電機機器を始めとする工業界だけではありません。我が建築界も足場用鋼管の生産基地、セメントの生産を始めとする様々な資材の生産調達をアジア各地で実施しています。

もはやアジア圏はナショナル圏に繋がっている外周エリアと捉え、日本と同じような活動の場と考える時であり、そうしてゆくことに諸君の明るい未来もあると思います。

NHKの朝のドラマ「おしん」はアジアの多くの人々には今なお現実の生活とイコールであり、共感を持って受け入れられ今も人気があります。そして「おしん」は各国でお手伝いさんを意味する外来語として日常使われる各国の名詞となっています。かつて、日本人が歩んできた同じ道を今アジアの人々は歩き、日本に追いつこうとして頑張っています。そんなことも価値観を共有してやっていける場所です。真の人生の価値を見つける『動くこと』のステージとしてアジアは日本人、特に若者には最高の場所であると思います。学生時代にアジアを体験してみよう、と言いたいのです。必ず発見があり、何かにトライしてみようという活力が知らずのうちに沸いてくると思います。

確かに、人間の質は大きく違わないとはいえ、文明の利器によって歴史が大きく変化することは、動力の発明から始まった産業革命で立証済みのことで、情報の相互の、ハイスピード交流技術やクローン羊で象徴される生

命の謎の解明に手を掛けている今、また歴史が大きく変わろうとしていることは確かでしょう。

このような時代には過去にもあったことですが、既存の価値観、ルールも通用しなくなってゆきます。卑近な例では、今や、東大もキャリア官僚も、大銀行も大企業も、それらの組織に加わっただけでは何ひとつ確かな人生が保障されるとはいえず、人生は個々人の能力、努力、気力、体力、あとは運が全ての時代になろうとしているようです。

しかし、一見矛盾するように読まれるかもしれませんが、最後にひとつだけお断りしたいのです。日本の横並び体質、護送船団方式、集団主義を欧米人だけでなく、日本人の中にも諸悪の根元のようにいう傾向がありますが、このシステムについては注意深く扱った方が良いでしょう。

アングロサクソンの価値基準による国際標準・スタンダードを実践することイコール国際化と短絡的に結論付けることは間違いだということです。

国際標準・スタンダードというのは道路交通体系で例えれば、ハイウェイ方式です。日本のこれまでの行動基準は、信号があつたり踏切があつたりする生活道路方式のようなものだと思います。

確かにハイウェイの方が効率よくそれぞれの車の性能に応じて走ることが自由であるのに対し、生活道は車の性能別の力を十分に発揮できず、イライラすることも多く、性能差が少なくなります。社会のシルエットにこのことを当てはめると、日本方式は中間層が多数を占め、トップと下層の差が極端にならない姿になることで、これらが果たして本当に悪かということは、よく考えてみる必要があります。

21世紀アジアン・スタンダードを構築する上で、ひとつのモデルとして考えてみなければならぬと思います。これは21世紀のアジアで生きる諸君の大きな課題だと思います。

(かたぎりまさお・建築教室主任、教授)

平成15年度 履修要項

建築学科

平成15年4月

1. 履修に関する一般事項

◆履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書だから、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の2年次編入生には平成14年度の、また3年次編入生には平成13年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にもなって改訂されることがある。平成10年度および平成15年度の改正によって、1年次生、2～6年次生、7年次生以上では、それぞれ履修規定・設置科目が異なっているので注意すること。特に本年平成15年度の新1年生に適用される新カリキュラム（通称「新・新カリキュラム」）では大幅な改訂が行われている。2年次以上の学生が1年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。

◆相互履修および単位互換制度 平成7年度から、日本大学相互履修制度が運用されている。これは、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能科目、申請手続き等はガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部等の講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたもので、平成8年度から実施されている。上の相互履修制度を短大にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

◆他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があって、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当師の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる（履修要覧参照）。

◆受講届 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

◆教職課程の受講 中学校および高等学校の教員免許を取得希望の者は、教職課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、学部要覧の履修要項（教職課程）を参照されたい。

平成15年度クラス担任
学部

学年	クラス担任	研究室No.・電話番号（内線）
1年	専門 岡村 武士	船・大型構造物試験棟 047-469-(5366) 駿・9号館946 03-3259-0(928) 駿・3号館331 03-3259-0(708)
	森泉 和人	
	A 朝倉 徳雄	船・スポーツホールG 047-469-(5298)
	川岸 正樹	駿・584-B 03-3259-0(960)
	B 小川 貴	船・スポーツホールD 047-469-(5327)
	中川 浩	船・5号館541-C 047-469-(5230)
	C 小中 秀彦	船・5号館571 047-469-(5235)
武藤 司	船・5号館543-C 047-469-(5234)	
2年	1組 根上 彰生	駿・5号館577-B 03-3259-0(700)
	石垣 秀典	駿・4号館454 03-3259-0(720)
	2組 重枝 豊	駿・5号館587-B 03-3259-0(679)
	山田 雅一	駿・4号館433-A 03-3259-0(696)
3年	1組 早川 眞	駿・4号館453 03-3259-0(707)
	八藤後 猛	駿・9号館965 03-3259-0(712)
	2組 石田 道孝	駿・9号館965 03-3259-0(715)
	富田 隆太	駿・5号館583-A 03-3259-0(699)
4年	1組 今村 雅樹	駿・5号館589 03-3259-0(706)
	蜂巣 浩生	駿・4号館453-B 03-3259-0(707)
	2組 岡田 章	駿・4号館439-B 03-3259-0(710)
	渡辺 富雄	駿・9号館966 03-3259-0(967)
	過年度 野村 歡	駿・9号館965 03-3259-0(712)

大学院理工学研究科建築学専攻（修士）

1年	清水 五郎	駿・4号館439-A 03-3259-0(698)
2年	井上 勝夫	駿・5号館582-A 03-3259-0(418)

大学院理工学研究科不動産科学専攻（修士）

1年	宇崎崎勝也	駿・5号館577 03-3259-0(700)
2年	根上 彰生	駿・5号館577 03-3259-0(700)

■ 1 年次生

○履修要項と学科の概要について

1 年次生は、ガイダンスの時に配布される平成15年度(2003)学部要覧に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この学部要覧には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、学部要覧の学科目概要および学期初めに科目担当教員から配布される授業計画(シラバス)で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース(環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース)選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

○新・新カリキュラムについて

平成15年度から始まるカリキュラムは、将来必要となる国際資格(JABEE, UNESCO-UIA)にも対応した科目構成となっている。学部要覧の授業科目配置表を見るとわかるように、初年次からの2年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できること、が本カリキュラムの特徴である。なおいずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引き」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期終了時に行われる。各コースには定員が設けられており、各人の希望、取得科目・単位、適性等を考慮しながら、建築教室がコースを決定する。

○総合教育・外国語の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる総合教育科目が1年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

○基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「(選択)共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「(必修/選択)専門基礎教育科目」が、設置されている。前者の共通科目の微分積分学、基礎物理学Iおよび工業数学は、基礎となる重要な科目であるから、できるだけ1年次で単位を修

得するようにしたい。また後者の専門基礎教育科目には、建築基礎実験とデザイン基礎の必修2科目およびコンピュータリテラシ、情報処理の選択2科目が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから、1年次ですべて受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には設置されないこと、デザイン基礎の単位を修得しないと後期の設計Iを受講できないことに留意すべきである。

○専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修3科目と選択4科目の計7科目が設置されている。この内、環境の計画と技術(必修)、建築デザインと歴史、構造の計画と技術、社会と建築・都市の4科目は、建築全般を概観する教科である。これらは2年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を習得するものであり、すべての受講をすすめる。なお初年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと、設計Iの単位を修得しないと設計IIを受講できないことに留意すべきである。

1年次では最大46単位までの単位修得が認められる。無計画に毎日5時限まで授業を組む必要はない。卒業までの4年間をどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

■ 2 年次生

○専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した平成14年度(2002)学部要覧による。2年次から本格的な専門教育課程に入る。教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。諸君はそれぞれ該当するクラスの時間割に従って、受講計画を立ててもらいたい(クラスを変更した受講はできない)。なお1年次設置の専門科目を受講する必要のある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2年次設置の専門教育科目はすべて、これから建築を学んでゆく上の基礎的な科目であるから、時間割に組まれたこれらの科目は、単位数からみても全部履修することが望ましい。とくに、※印のついた16科目(企画経営コースも16科目)は「選択必修科目」である。「必修」と同様に考えて、受講してもらいたい。

カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「建築学科履修の手引」を再読して、各科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で、選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の約78%にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般につい

では、クラス担任が相談にのってくれる。

○基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、線形代数学、微分方程式、材料化学Ⅰの3科目8単位である。卒業条件としては、1年次設置の建築概論、デザイン基礎Ⅰ、Ⅱ等を含めて合計16単位以上を修得すればよい。受講計画は、3、4年次の構造系専門科目の基礎として「微分方程式」、「材料化学Ⅰ」を、環境工学、都市計画、建築計画などの計画系専門科目の基礎として「線形代数学」の受講をすすめる。

○建築学コース、企画経営コースの選択と登録について

諸君は2年次後期に「建築学コース」か「企画経営コース」を選択・登録し、以後はそれぞれのコースのカリキュラムに従って、各学科目の選択・受講の計画を立てることになる。コース選択の方法は、後日クラス担任および企画経営コース担当の教員から説明がある。なお、前期に設置されている「不動産科学概論」は企画経営コースの入門的な内容で、両コースの学生がそれぞれ専門教育科目の一つとして受講できるようになっている。なお、企画経営コースのB系列専門科目は、コース選択が決定した後期に受講登録できる。

○建築設計Ⅰ、Ⅱおよび建築材料実験の受講について

建築設計も実験も10数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料その他、各種の注意事項が、駿河台校舎5号館5階エレベータホールに掲示されるので、毎週月、木曜日に駿河台校舎に来たら、必ず掲示を確認するとよい。

■3年次生

○専門教育科目の受講について

2年次と同様に3年次には、建築を学んでゆく上で基礎となる専門教育科目が設置されている。自分の専攻分野を決めるために各方面にわたる科目を3年次で一通り履修しておくことよい。

ただし、3年次編入生は2年次設置科目から優先的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から、本年度の受講計画が一番難しい。そこで、編入生に限りクラスを変更して受講することが認められることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談すること。

建築学科の卒業条件としては、必修、選択必修科目を含めて専門教育科目82単位以上を修得しなければならない。また4年次設置の専門科目は、原則として諸君がそれぞれ自分の専攻分野を決めてから受講する選択科目だ

から、3年次終了までに専門教育科目の単位は少なくとも70単位以上修得しておくべきである。

とくに企画経営コースでは、3年次に基礎的かつ重要な専門科目が集中設置されているので、これらの単位は必ず修得しなければならない。

○卒業研究着手条件について

諸君が来年度に卒業研究に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約78%にあたる102単位以上を今年度中に修得しなければならない。これは、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業に必要な単位の合計が102以上なければならないので充分注意してほしい。この卒業研究着手条件は厳守され、例外はない。

また、次年度の卒業研究に十分な時間をかけて悔いのない大学生活をおくるためには、3年次終了までに修得する単位数が、卒業条件として有効な単位だけで少なくとも120単位以上あることが望ましい。

■4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

本来ならば卒業研究指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について卒研指導の先生と相談するのが理想である。しかし、近頃の現実はそううまくゆかなくて、就職活動は2月、3年次の期末試験が終わるとすぐに始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築教室の就職情報を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生がたや先輩、両親等早めに相談するとよい。

デザイナー、構造デザイナー、企業の研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期課程（修士）への進学をすすめる。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が有利である。大学院進学は卒研指導の先生とできるだけ早く相談すること。ただし大学院進学希望者が一つの研究室に集中すると、一人の先生が指導できる大学院生の数は限られているから、その時点で進路の窓口が閉ざされてしまうことがある。建築教室内のこのような事情はクラス担任が一番正確に把握しているから、流言に惑わされず、クラス担任からの確かな情報を得るのがよい。卒業研究の研究室選択には、自分の専門を決める以外にもいろいろなファクターが関係する。

○専門教育科目の受講について

建築学コース4年次に設置されている専門科目は、2、3年次の専門科目70～75単位を修得した上で、諸君の将来の進路なども考慮して、表1に示す計画系、構造系の分類の中から選択して受講するとよい。受講科目が計画・構造の両系にまたがってもよいが、自分の得意な分野を決めてそれを深めながら、時間の余裕があれば、広く知識を求めるのが理想である。

○建築学コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目17単位、※印の選択必修科目19科目以上を含むA系列選択科目50単位以上を含めて合計82単位以上。

たとえば3年次終了までに、卒業条件に合う専門科目の修得単位総数が70単位だったとすれば、4年次の必修科目として卒業研究4単位、卒業制作2単位、計6単位があるから、4年次で6単位以上を修得すればよいことになる。卒業条件130単位を満たすためには、この他どの科目区分からでも自由に選べる単位が6単位ある。これを仮に専門教育科目でカバーしようとするれば、6+6=12単位であり、4年次前期で十分に修得できる単位数である。

○企画経営コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目17単位、※印の選択必修科目の中からA系列18科目以上、B系列11科目以上を含めて82単位以上。

企画経営コース4年次設置の専門科目は、コース独自のB系列科目がほとんどである。各自の卒業研究テーマとも関連づけて、クラス担任と相談のうえ選択するのがよい。

■建築実験について

建築実験は、それぞれ10数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表2に示す。

■建築設計について(2年次生以上)

建築設計はI～IIIまでが必修で、3年次後期の設計演習Iと4年次前期の設計演習IIは選択である。設計演習I、IIは、将来、主として設計(デザイン)方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には、自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

ただし、建築学科を卒業後、実務経験2か年を経て受験することのできる1級建築士資格試験の設計製図の課題内容は、大学で建築設計IIIまでを修得していれば十分対応できる。

表1 4年次設置の専門教育科目の分類

環境・計画系		構造・材料・施工系	
設計演習II	(2)	構造設計II	(2)
建築経済	(2)	測量及び実習	(2)
建築計画V	(2)	特別講義(木造建築論)	(2)
都市計画III	(2)	構造デザイン	(2)
環境工学III	(2)	構造解析法	(2)
建築設備演習	(1)	防災計画I	(2)
特別講義(デザイン論)	(2)		
防災計画I	(2)		
計 15単位		計 12単位	

(注) 特別講義はどちらか一方のテーマを選択・受講する。測量及び実習、構造デザインは計画系の学生にも必要な科目である。

表2 建築実験の実験項目と担当者一覧

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験(必修・2単位) 岡村	化学実験(一般・化学) 物理実験(一般・物理) 専門科目 振動実験(石丸、石垣) 構造部材(岡村) 構造強度(斎藤(公)、岡田) 風洞実験(三橋、下村、広部) 測定法(中山)
建築材料実験(必修・1単位) 三橋	セメント・コンクリート実験 (清水(五)、友澤、中山、依田、飛坂) 鋼材実験(半貫、三橋、斎藤(俊))
建築環境実験(必修・1単位) 井上、橋本	騒音実験(井上、橋本、吉村、富田) 設備実験(早川、蜂巢、八町) 光実験(関口、橋本、羽入、富田)
建築構造実験(必修・1単位) 斎藤(公)、岡田	構造安定実験(斎藤(公)、岡田、中島) *構造部材実験(白井、森泉、清水(泰)) *土質実験(安達、山田) (*一つを選択)

(注) 実験項目については、担当者の研究室へ、可否その他総合的な質疑は、担当責任者に問い合わせること。

- 建築設計の各科目は、必修、選択ともに同時受講はできない。またデザイン基礎I、IIを修得しないで建築設計I、IIを、建築設計I、IIを修得しないで建築設計IIIと設計演習Iを、そして建築設計IIIと設計演習Iを修得しないで設計演習IIを受講することはできない。すなわち建築設計は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- その他、建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う建築設計ガイダンスの際、配布するパンフレット「2003年度建築設計課題集」に記載してある。
- 建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、5号館5階エレベータホールに掲示する。
- 本年度の建築設計関係科目の事務担当を表3に示す。
- 2年次以上で、デザイン基礎I、IIを修得していない者は、今年度から新・新カリキュラムがスタートし、科目名称が変更になっているので留意すること。

表3 平成15年度 建築設計担当者一覧

学年	科目	1組	2組
1年(船)	(新) デザイン基礎	(水) *柳田 武 大川 三雄 重枝 豊 近藤 康広 (木内 厚子) 榎本 弘之	(金) *石田 道孝 赤羽 輝臣 宇杉 和夫 川口 英俊 (川元美奈子) 高階 澄人
	(新) 建築設計Ⅰ	(水) 安田 博道 *本杉 省三 藤内 博史 柳田 武 榎本 弘之 (木内 厚子) 上利 益弘 高階 澄人	(金) *今村 雅樹 内田 尚宏 石田 道孝 田中 雅美 渡辺 富雄 中川 龍吾 (川元美奈子) 川口 英俊
2年(駿)	建築設計Ⅰ	(月) *大川 三雄 内田 尚宏 若色 峰郎 上利 益弘 野村 歎 安田 博道 重枝 豊 (川元美奈子)	(木) *宇杉 和夫 横山 聡 本杉 省三 中川 龍吾 柳田 武 前田 光一 渡辺 富雄 (木内 厚子)
	建築設計Ⅱ	(月) 赤羽 輝臣 *渡辺 富雄 奥田 孝次 若色 峰郎 城戸崎和佐 杉 千春 (川元美奈子) 横山 聡	(木) 中村 弘道 河辺 哲雄 *横河 健 桑原 立郎 今村 雅樹 近藤 康広 (木内 厚子) 前田 光一
3年(駿)	建築設計Ⅲ	(水) 椎名 英三 *若色 峰郎 桑原 立郎 高宮 眞介 河辺 哲雄 本杉 省三 杉 千春 高橋 晶子 (川元美奈子)	(金) 奥田 孝次 *今村 雅樹 城戸崎和佐 渡辺 富雄 中村 弘道 佐藤 光彦 田中 雅美 榎内 博史
	設計演習Ⅰ	(水) *横河 健 椎名 英三 若色 峰郎 佐藤 光彦 (川元美奈子)	(金) *高宮 眞介 高橋 寛 宇杉 和夫 藤江 秀一 (木内 厚子)
4年(駿)	設計演習Ⅱ	(火) 《建築》*高宮 眞介 横河 健 藤江 秀一 片桐 正夫 《都市》*根上 彰生 宇於崎勝也 嶋田 幸男 (木内 厚子・川元美奈子)	
大学院1年	建築デザインⅠ	(土) *横河 健 今村 雅樹 小泉 雅生 水谷 碩之	
	建築デザインⅡ	(土) *高宮 眞介 飯田 善彦 水谷 碩之	

*科目担当 ()内 事務担当

○4年次設置の特別講義の構成について

特別講義は、高宮眞介教授の「デザイン論」と藤居秀男非常勤講師による「木造建築論」が併設されている。

高宮教授の「デザイン論」では、建築を設計する視点から、ルネッサンス以降、近現代に至る広い範囲で、建築思潮上重要と思われる作家と作品を重点的に取り上げて解説し、建築意匠を論ずる。特に、モダニズムの原点とその展開を概観するのが目標となっている。

一方の「木造建築論」の目指すところは、どのように建築をつくりあげるかという視点から、広く「木質構造建築」へアプローチする発想を養うことにある。わが国は伝統的に木造の国である。古来伝承されてきた構法に加えて、2×4構法(枠組壁構法)、丸太組構法、大断面集成材による大空間構法など、多様化する木質構造の本質に迫るのが本講座の目標である。

■卒業研究について(各コース共通)

建築学科における卒業研究着手条件は、次のとおり。

卒業に必要な科目区分別修得単位総数が102単位以上であること。この「卒業に必要な科目区分別修得単位総数」に含まれる専門教育科目以外の単位は、それぞれ科目区分ごとに、総合教育科目14単位、外国語科目10単位(英語6単位以上)、保健体育科目2単位、基礎教育科目16単位までとする。上の各科目区分内でそれ以上修得した単位は、「卒業に必要な修得単位総数」には算入しない。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究着手条件を満足する学生は、平成15年2月に配布された「駿建」のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究の申し込みをすることができる。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次総合ガイダンスの際に詳しい説明がある。

卒業研究とは

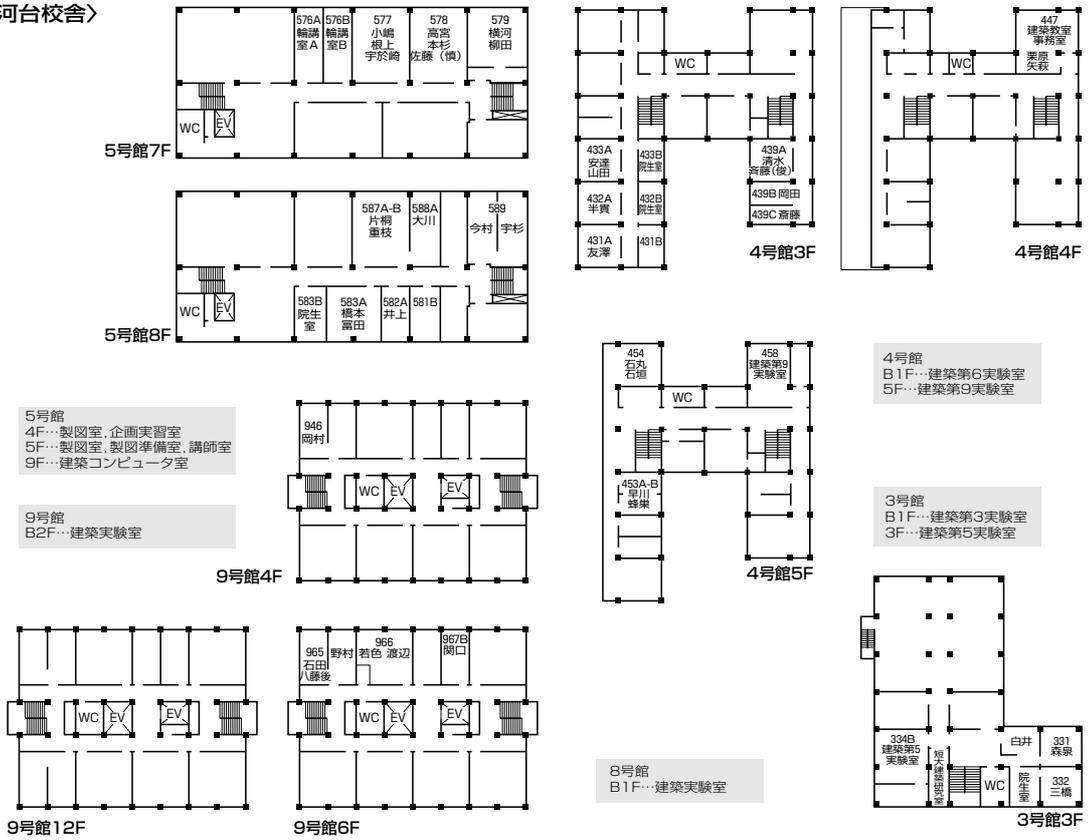
大学生活の締めくくりは、4年生の卒業研究である。大学は、各研究室が自由に、国際的に通じるような研究を行い、その成果を背景として生きた教育を行っていくことに意義があり、そこに大学の活力が生まれる。従って、各研究室に所属する大学院生と4年生に対する指導、すなわち、修士論文と卒業研究の指導が先生個人にも、大学にとっても教育の中心となっている。先輩・後輩のつながりや講義では得られない先生方との貴重なふれあいが、「自ら学ぶこと」をモットーとする大学での最も重要な時間となる。

1年間、研究室に所属して担当教員と研究テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めることにある。

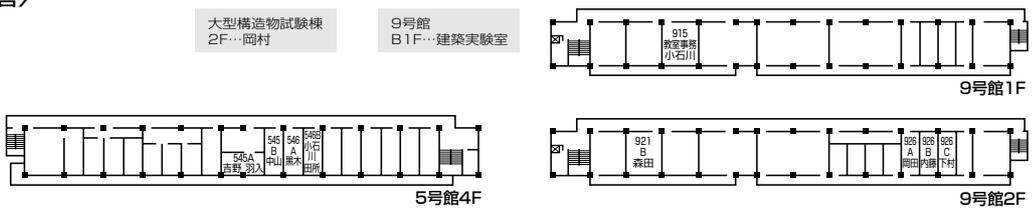
研究には、個人あるいはグループがあるが、いずれの場合も自分の可能性をみつけながら真剣に学び、学問だけでなく、生涯の友をつくり、自分を磨くこと、それが卒業研究である。

研究室マップ

〈駿河台校舎〉



〈船橋校舎〉



短期大学部建設学科

平成15年4月

■はじめに

建設学科における卒業最低条件は、表1に示すように、合計62単位（総合教育科目12単位以上、基礎教育科目7単位以上、専門教育科目36単位（必修：18単位、選択：18単位）以上、科目区分によらない任意の単位7単位以上）を取得しなければならない。これは短期大学部の教育理念が、完成教育を目指したもので、諸君の勉強が一方に偏らず、広く建築全般にわたって学修できるようにしたものである。学園生活全般にわたり不明な点がある場合は、クラス担任の諸先生(表2)に相談すること。次に、以上の事柄について詳しく説明しよう。

■履修コースの選定

建設学科に設置されている建築エンジニアリングコース・建築デザインコースの選定は1年次に建築に関する基礎的な教育科目を履修し、その1年間で自分が今後どちらのコースを主に学んでいきたいのか、どちらのコースに向いているのか、将来進むべき道を見極めて、2年次のはじめに自由に選択し決めることができる。履修コースを選定することにより、おのずとコース選択必修科目が設定される(表5)。なお、所属コースのいかんに関わらず、建設学科設置の専門科目は自由に履修することができる。

■総合教育科目・基礎教育科目

専門教育科目以外は、表3に示すように総合教育科目・基礎教育科目の2グループに分けられている。各グループの卒業に必要な条件は、総合教育科目から12単位以上、基礎教育科目から7単位以上、計19単位以上を修得しなければならない。なお、理工学部建築学科への編入希望者は物理実験Ⅰ・Ⅱを履修すること。

■専門教育科目

専門教育科目は表4に示すように必修科目(11科目・18単位)、選択科目(46科目・58単位)に大別される。ここで、卒業に必要な条件は、必修科目18単位と選択科目から18単位以上を修得しなければならない。また表5に示す、履修コース別選択必修科目からは、8単位以上を修得しなければならない。建築を学ぶ上で幅広い範囲にわたって各科目を履修することが望ましい。

とくに、サマーセッション(夏季集中授業)として行

表1 卒業に必要な最低単位

総合教育科目	12	
基礎教育科目	7	
小計	19	
専門教育科目	必修科目(11科目)	18
	選択科目	18
小計	36	
科目区分によらない任意の単位	7単位以上	
合計	62	

表2 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)	E-mail(nihon-u.ac.jp)
1年	岩田 惇	大講堂体育館H	047-469-(5298)	iwata@gaea.jcn.
	中山 優	545・B	047-469-(5566)	nakayama@arch.jcn.
	岡田 満	926・A	047-469-(5487)	okada@arch.jcn.
	羽入 敏樹	545・A	047-469-(5479)	hanyu@arch.jcn.
2年	下村 幸男	926・C	047-469-(5445)	shimo@arch.jcn.
	吉野 泰子	545・A	047-469-(5479)	yoshino@arch.jcn.
	田所辰之助	546・B	047-469-(5443)	tadokoro@arcn.jcn.

う授業もあるので注意すること。

■必修科目について

必修科目(表4上部:11科目)はすべての単位を修得しなければならない。なお、1年次に設置してある科目は原則として、1年次に受講すること。

以下に、建築を学ぶにあたり根幹となる2つの科目群について解説する。

1. デザイン基礎、建築設計Ⅰ・Ⅱ

建築設計は建築の総合的表現の修得を目的とするものであるから、長時間の実技的な修練が必要である。そのためには、各課題の所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかななければならない。受講票は、建築設計専用の受講票を使用する。ガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、写真を貼付して提出すること。各課題については、中間提出日時、作品提出日時と指定の班別担当師が課題別に発表される。中間指導は出題された課題について平・断面、スタディ模型等を作成し担当師の指導を受け、作品を仕上げていく。

なお、病気、事故などで作品を提出できない場合には、提出の前後1週間以内に理由書および診断書を事務担当に提出し、その指示を受けること。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

建築実験の内容を以下に示す。

建築実験Ⅰ：構造強度実験、光・色の実験

建築実験Ⅱ：鋼材実験、梁のたわみ実験、建築に関す

る化学実験

建築実験Ⅲ：セメント・コンクリート実験，風洞実験
建築実験Ⅳ：振動実験，騒音実験

学期初めに各担当師より詳細な説明が行われる。実験は重複しないように指定の班別を実施されるので，スケジュールにしたがって受講しなければならない。実験は所定の実験すべてを受講し，レポートを提出すること。なお，レポート受理の際には受領書を渡されるので，可否が判定されるまで保管すること。

やむをえない理由等により，所定の班および期日に受講できない場合は，事前もしくは直後に各実験担当師にすみやかに申し出て指示を受けること。

■履修科目の登録単位数の上限について

前学期および後学期の1年間に履修する科目として登録する単位数は，サマーセッションの登録単位数を含め50単位以下でなければならない。詳細についてはクラス担任の指導を受け，十分注意して履修計画をすること。

表3 総合教育科目・基礎教育科目

	授業科目	単位	履修方法
総合教育科目	A 人間と文化		A分野のスポーツⅠ，スポーツⅡ，スポーツⅢのうちから1単位及びD分野の英語講読Ⅰ，英語講読Ⅱ，英語表現法Ⅰ，英語表現法Ⅱ，実用英語Ⅰ，実用英語Ⅱ，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱのうちから4単位を含めて合計12単位以上を修得する。
	思想史	2	
	人間形成と倫理	2	
	名著講読	2	
	スポーツⅠ	1	
	スポーツⅡ	1	
	スポーツⅢ*	1	
	スポーツ健康科学	2	
	B 人間と社会		
	市民生活と法	2	
	日本近現代史と国際社会	2	
	科学技術史	2	
	科学技術と人間	2	
	日本国憲法	2	
	経済学入門	2	
	C 人間と自然		
	生命の科学	2	
	地球環境科学	2	
	宇宙の科学	2	
	D 言語とコミュニケーション		
	国語表現法Ⅰ	1	
	国語表現法Ⅱ	1	
	英語講読Ⅰ	1	
英語講読Ⅱ	1		
英語表現法Ⅰ	1		
英語表現法Ⅱ	1		
ドイツ語Ⅰ	1		
ドイツ語Ⅱ	1		
実用英語Ⅰ	1		
実用英語Ⅱ	1		
基礎教育科目	微分法	2	7単位以上を修得する。
	積分法	2	
	行列と行列式	2	
	線形代数	2	
	物理学Ⅰ	2	
	物理学Ⅱ	2	
	コンピュータリテラシ	1	
	物理実験Ⅰ	1	
	物理実験Ⅱ	1	
	化学Ⅰ	2	
	化学Ⅱ	2	
	化学実験Ⅰ	1	
	化学実験Ⅱ	1	
	微分方程式	2	
	微分方程式演習	1	
	数理統計	2	
	数理統計演習	1	
合計	66		

*サマーセッション

表4 専門教育科目

	1年次	単位	2年次	単位	履修方法
必修科目	建築実験Ⅰ	1	建築実験Ⅲ	1	必修科目18単位を含めて36単位以上を修得する。
	建築実験Ⅱ	1	建築実験Ⅳ	1	
	デザイン基礎	2	建築設計Ⅱ	2	
	建築設計Ⅰ	2			
	構造力学Ⅰ	2			
	建築材料Ⅰ	2			
	建築計画Ⅰ	2			
	環境の計画と技術	2			
選択科目	一般構法	2	特別講義Ⅱ	1	必修科目18単位を含めて36単位以上を修得する。
	構造力学演習Ⅰ	1	応用力学Ⅱ	2	
	工業数学	2	応用力学演習Ⅱ	1	
	特別講義Ⅰ	1	構造力学Ⅲ	2	
	応用力学Ⅰ	2	構造力学演習Ⅲ	1	
	応用力学演習Ⅰ	1	環境工学Ⅰ	2	
	構造力学Ⅱ	2	環境工学Ⅱ	2	
	構造力学演習Ⅱ	1	建築法規	2	
	建築材料Ⅱ	2	鉄筋コンクリート構造	2	
	建築計画Ⅱ	2	海洋建築概論	2	
	建築史Ⅰ	2	建築史Ⅱ	2	
	情報処理	1	空間デザイン	2	
	視覚伝達デザイン	1	建築施工法	2	
			ゼミナール	1	
			建築設計Ⅲ	2	
			卒業制作	2	
			建築設備概論	2	
			土質及び基礎構造	2	
			コンピュータ支援構造解析	1	
			構造設計法	2	
			鋼構造	2	
			振動工学	2	
			建築情報処理	1	
			木質構法	2	
			美術・様式史	2	
			建築メディアデザイン演習Ⅰ	1	
			デザイン・生産実習*	2	
		都市計画概論	2		
		インテリア計画	2		
		デザイン論	2		
		建築メディアデザイン演習Ⅱ	1		
		福祉住環境概論	2		
		企画経営学概論	2		
	合計	34	合計	62	

表5 コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は，専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
エンジニア	応用力学Ⅱ	2	コンピュータ支援構造解析	1	左記科目より8単位以上を修得する。
	応用力学演習Ⅱ	1	構造設計法	2	
	構造力学Ⅲ	2	鋼構造	2	
	構造力学演習Ⅲ	1	振動工学	2	
	環境工学Ⅰ	2			
	環境工学Ⅱ	2			
	建築施工法	2			
	鉄筋コンクリート構造土質及び基礎構造	2			
デザイン	デザイン・生産実習*	2	建築設計Ⅲ	2	左記科目より8単位以上を修得する。
	建築法規	2	卒業制作	2	
	建築史Ⅱ	2	都市計画概論	2	
	空間デザイン	2	デザイン論	2	
	美術・様式史	2	建築メディアデザイン演習Ⅱ	1	
	建築メディアデザイン演習Ⅰ	1	インテリア計画	2	

専門科目使用教科書並びに参考書

建築学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
環境の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会編	彰国社	3,500	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
建築デザインと歴史	建築通論	建築通論編集委員会編	彰国社	3,500	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
	建築への誘い	近江 栄, 宇野英隆編	朝倉書店	2,600	書店
構造の計画と技術	つどいの空間	ドーム建築企画編集委員会	日本建築センター他	3,620 (税別)	書店
	建築通論	建築通論編集委員会編	彰国社	3,500	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
	空間体験 —世界の建築・都市 デザイン—	日本建築学会編	井上書院	3,000	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛	彰国社	2,500	書店
社会と建築・都市	建築通論	建築通論編集委員会編	彰国社	3,500	書店
建築基礎実験・建築実験	建築実験法	建築系学科共著	彰国社	5,077	清水研究室(439-A)
応用力学Ⅰ,Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	安達研究室(433-A)
応用力学演習Ⅰ,Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,205	安達研究室(433-A)
構造力学Ⅰ,Ⅱ	建築構造力学(上巻) 建築の構造とデザイン	齋藤謙次 斎藤公男(監訳)	理工図書 丸善	2,350 2,884	ガイダンス時に案内 書店
	建築構造力学(下巻) 建築の構造とデザイン 鋼構造塑性設計指針	齋藤謙次 斎藤公男(監訳) 日本建築学会	理工図書 丸善 日本建築学会	2,350 2,884 3,528	ガイダンス時に案内 書店 日本建築学会, 書店
構造力学演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ	建築構造力学演習 (上,下)	齋藤謙次	理工図書	各1,750	ガイダンス時に案内
鉄筋コンクリート構造Ⅰ,Ⅱ	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内 書店
	鉄筋コンクリート構造 の設計—学びやすい 構造設計		技報堂	5,000	
鋼構造	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,570	書店
	鋼構造設計演習	鋼材倶楽部	技報堂	4,515	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
構造設計法および演習Ⅰ 構造設計Ⅱ	鉄筋コンクリート構造 計算規準・同解説 —許容応力度設計法 構造設計論	日本建築学会	日本建築学会	5,880	日本建築学会, 書店
	鋼構造設計規準	佐藤邦昭 日本建築学会	鹿島出版会 日本建築学会	3,255 6,090	書店 日本建築学会, 書店
	建築の絵本 —建築構造のしくみ 建築の構造とデザイン 柱のない空間 —スポーツ・イベント・ 展示ホール—	川口 衛 他 斎藤公男(監訳) 日本建築学会	彰国社 丸善 彰国社	2,500 2,884 1,900	書店 書店 斎藤研究室(439-C)
構造デザイン	つどいの空間 —ドーム建築のデザイン と技術—	ドーム建築企画編集委員会	日本建築センター他	3,620 (税別)	書店
構造解析	建築技術者のための 有限要素法入門	佐藤稔雄編著	理工図書	2,884	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
振動工学	構造物の動的解析	石丸辰治	石丸研究室	2,000	石丸研究室(454)
対地震構造	構造物の動的解析 Part II	石丸辰治	石丸研究室	1,500	石丸研究室(454)
建築材料(I)(II)	建築材料用教材	日本建築学会編	丸善	1,900	清水研究室(439-A)
建築施工法, 建築積算	施工・見積	加藤賢三 他2	彰国社	4,980	半貫研究室(432-A)
一般構法 I	図説テキスト建築構造(構造システムを理解する) 構造用教材	日本建築学会	彰国社	2,600 (税別)	書店
			日本建築学会	1,845	書店
一般構法 II	建築構法 建築構法汎論 構造用教材 図解テキスト基本建築学	内田祥哉 福島正人 日本建築学会 上杉 啓, 真鍋恒博 他	市ヶ谷出版	2,800	書店
			森北出版株式会社	3,400	
			彰国社	1,845	
				4,200	
地盤基礎工学 I, II	基礎構造の設計 建築基礎構造設計指針 (2001改定)	日本建築学会関東支部 日本建築学会	日本建築学会 関東支部	3,600	安達研究室(433-A)
			日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
(新)デザイン基礎	建築図学概論	若色峰郎, 柳田 武 他	彰国社	3,000	書店
(新)建築設計 I	建築設計教室 建築デザインの製図法 から簡単な設計まで 新訂建築製図	勝又, 宮下, 本杉 武者英二, 永瀬克己 日本建築学会	彰国社	3,000	書店
			彰国社	2,369	書店
			彰国社	1,648	書店
建築計画 I	建築計画 1	岡田光正 他	鹿島出版会	2,900	書店
建築計画 II	建築計画 2	岡田光正 他	鹿島出版会	3,600	書店
建築計画 III	設計方法 IV —設計方法論 設計方法 V —設計方法と設計主体 デザインの鍵 設計方法論 建築・都市計画のための空間学事典 建築・都市計画のための調査・分析方法	日本建築学会, 建築計画委員会, 設計方法小委員会	彰国社	1,957	書店
			彰国社	2,400	書店
		日本建築学会, 建築計画委員会, 設計方法小委員会	丸善	2,200	書店
			丸善	2,900	書店
		日本建築学会編	井上書院	3,605	書店
			井上書院		書店
建築計画 IV	日本住宅の空間学 新建築学大系・23 建築計画	宇杉和夫 原 広司, 鈴木成文 他	理工図書 彰国社	3,200 5,562	宇杉研究室(589) 書店
建築計画 V	高齢者・障害者の住まいの改造とくふう 建築設計資料 14 心身障害者福祉施設 住環境のバリアフリー デザインブック	野村 歡 野村 歡 野村 歡監修	保健同人社	2,730	書店
			建築資料研究社	3,500	書店
			彰国社	3,000	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
都市計画Ⅰ, Ⅱ	都市の計画と設計	小嶋勝衛監修	共立出版	3,465	書店 (都市計画研でも扱っています) 書店 書店 書店
	都市計画第3版	日笠 端・日端康雄	共立出版	3,885	
	日本近代都市計画の百年	石田頼房	自治体研究社	2,548	
	「都市計画」の誕生	渡辺俊一	柏書房	3,600	
都市計画Ⅲ	都市の計画と設計	小嶋勝衛監修	共立出版	3,465	書店 (都市計画研でも扱っています) 書店
	都市の景観	G.カレン 北原理雄(訳)	鹿島出版会 (SD選書)	1,890	
	新しい都市デザイン	J.バーネット 倉田直道・洋子(共訳)	集文社	3,675	
建築法規及び行政 短大建築法規	基本建築関係法令集 上巻(法令編)	建設省住宅局建築指導課	霞ヶ関出版	未定	書店もしくは指定された日に購入 書店
	建築法規用教材	日本建築学会(建築法制委員会)編	日本建築学会	未定	
建築史概論	西洋建築様式史図集	太田静六	理工図書	2,300	書店 書店
	西洋建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,575	
建築史Ⅰ	日本建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	建築史研究室(587-A,B) 書店
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,884	
建築史Ⅱ, Ⅲ	図説 近代建築の系譜	大川三雄 他	彰国社	3,200 各620	建築史研究室(587-A,B) 書店
	日本の近代建築 (上, 下)	藤森照信	岩波新書		
	図説 近代日本住宅史	大川三雄 他	鹿島出版会	3,200	書店
	建築モダニズム 近代和風を探る (上, 下)	大川三雄 他 大川三雄 他	(株)エクスナレッジ (株)エクスナレッジ	3,000 各1,400	書店 書店
建築史Ⅳ	東洋建築史図集	日本建築学会編	彰国社	3,193	建築史研究室(587-A,B)
環境工学Ⅰ	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,420	井上研究室(582-A)
	建築環境工学用 教材: 環境編	日本建築学会編	丸善	1,900	書店
環境工学Ⅱ	建築環境工学[改訂 2版]	田中俊六・武田 仁 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 (環境編)	日本建築学会	日本建築学会	1,854	書店
環境工学Ⅲ	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会編	技報堂出版	4,635	井上研究室(582-A)
	建物の遮音設計資料	日本建築学会編	技報堂出版	4,944	書店
建築設備Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	4,200	ガイダンス時に案内 書店 書店 書店 書店
	環境工学用教材 (設備編)	日本建築学会編	日本建築学会	1,845	
	空気調和設備の実務 の知識	空気調和・衛生工学会編	オーム社	4,350	
	衛生・給排水設備の 実務の知識	空気調和・衛生工学会編	オーム社	4,330	
	暮らしの技術としての 建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	3,950	
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内

専門科目使用教科書並びに参考書

短期大学部建設学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
建築実験	建築実験法		彰国社	5,145	黒木研究室(546-A)
デザイン基礎	新版・新しい建築製図 コンパクト建築設計資料集成	新版・新しい建築製図編集委員会編 日本建築学会編	学芸出版社	2,100	小石川・田所研究室(546-B)
			丸善	6,901	書店
応用力学Ⅰ,Ⅱ	建築材料力学 建築応用力学	榎並 昭 小野 薫, 加藤 渉	彰国社 共立出版	2,783 2,310	ガイダンス時に指示
応用力学演習Ⅰ,Ⅱ	建築応用力学演習 応用力学演習問題解析法	加藤 渉, 榎並 昭 西村敏雄	共立出版 理工図書	2,206 4,935	ガイダンス時に指示 ガイダンス時に指示
構造力学Ⅰ,Ⅱ	建築構造力学(上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,350	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅰ,Ⅱ	建築構造力学演習(上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,750	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅲ	建築構造力学(下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,350	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅲ	建築構造力学演習(下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,750	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	中山研究室(545-B)
鋼構造	鉄骨の設計	若林 實	共立出版	2,781	岡田研究室(926-A)
構造設計法 構造設計演習	わかりやすい鉄筋コンクリート構造の設計 鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	藤田 幹, 内藤正昭 日本建築学会編	理工図書	3,400	内藤研究室(926-B)
			日本建築学会	5,974	書店
土質力学及び基礎構造	建築基礎構造設計指針	日本建築学会編	日本建築学会	5,974	書店
建築計画Ⅰ	建築計画 1	岡田光正 他	鹿島出版会	2,900	小石川・田所研究室(546-B)
環境工学Ⅰ	建築環境工学用教材・環境編 建築気候	日本建築学会編 斎藤平蔵	日本建築学会	1,845	吉野・羽入研究室(545-A)
			共立出版	3,090	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画 建築環境工学用教材・環境編	木村 翔 日本建築学会編	彰国社	3,420	吉野・羽入研究室(545-A)
			日本建築学会	1,845	吉野・羽入研究室(545-A)
建築法規	建築基準法令集	オーム社編	オーム社	1,500	書店
都市計画概論	都市の計画と設計	小嶋勝衛監修	共立出版	3,465	横内研究室(924-A)
海洋建築概論	東京ベイサイドアーキテクチャ	畔柳昭雄 他	共立出版	1,900	書店
建築史Ⅰ	日本建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	小石川・田所研究室(546-B)
建築史Ⅱ	西洋建築史図集 図説 近代建築の系譜	日本建築学会編 大川三雄 他	彰国社	2,575	小石川・田所研究室(546-B)
			彰国社	3,200	小石川・田所研究室(546-B)
建築設備概論	建築設備概論 建築環境工学用教材・設備編	吉田 榛 日本建築学会編	彰国社	4,200	吉野・羽入研究室(545-A)
			日本建築学会	1,845	書店
空間デザイン	建築構造のしくみ	川口 衛	彰国社	2,625	黒木研究室(546-A)
一般構法	建築の構造システム	平山善吉 他4名	理工図書	4,800	内藤研究室(926-B)
建築材料	建築材料用教材	日本建築学会編	日本建築学会	1,900	建築教室事務室(915)
建築施工法	最新 建築施工法(10版)	鯉田和夫 他	技報堂出版	未定	建築教室事務室(915)
情報処理	はじめて学ぶC言語入門(改訂版)	斎藤奈保子, 渡部由利, 宮本英美	実教出版	2,000	書店

新任教員紹介

友澤史紀先生
(教授・建築材料)



この度、伝統ある理工学部建築学科にお招きいただき、建築材料学担当の教授として着任いたしました。

私は平成12年3月に東京大学を定年退官したあと、北海道大学に3年間勤務し、この3月でここも退官することになりました。そろそろ大学教官の仕事も終え、気ままな生活でも始めようかと考えていましたが、思いがけず伝統ある日本大学からお声をかけていただき、三度、大学で仕事を続けることになりました。本学の建築関係学科の先生方とは、理工学部だけでなく生産工学部や工学部の先生方とも、建築学会やその他の委員会などで一緒にになったこともあり、また本学OBの大勢の方々ともいろいろな場でおつき合ひさせていただいていますので、あまり違和感もなく勤務させていただけると思っています。また私の恩師であります元東大教授岸谷孝一先生も東大退官後本理工学部で教授をされておりましたので、この点でも本学は懐かしい場所でもあります。

以下に私の略歴をご紹介します。

私は1940年横浜市で生まれましたが、すぐに山梨県に移動し、幼少時を全くの田園と自然の中で過ごしました。当時は第2次大戦の真っ只中でしたが、幸い空襲などもなく子供には単なる遊びの中の出来事でした。終戦と同時に両親の故郷である愛媛県に戻り、高校卒業まで新居浜市で過ごしましたが、ここでは中学・高校時代サッカーに熱中していました。

高校卒業と同時に上京し、1年間は神田駿河台の予備校に通いましたので、駿河台は私にとって東京の原点のようなものです。一浪後東京大学に入学し、昭和38年に建築学科を卒業、大学院に進学しました。ここでの研究テーマはコンクリートのプレファブ化技術でしたが、研

究が次第に基礎的な方向に行き、結局セメントの水和反応をコンピューターで計算するモデルを作りました。水和反応全過程のコンピューターシミュレーションは多分、当時世界でも初めてのものだったと思いますが、このモデルは今でもいろいろの応用研究に使われています。

大学院修了後、2年間の東大助手を経て、建設省建築研究所に採用され、さまざまなコンクリート関連の研究、建築材料の資源・エネルギー問題の研究、建築物の劣化度調査や耐久性に関する研究に従事しました。この間、1972年9月から1年間はフランスに留学させていただきました。

建築研究所は1979年に筑波研究学園都市に移転し、以来9年間筑波に勤務しましたが、1987年東大建築学科教授に任命され、東京に戻りました。東大では高強度コンクリートやコンクリートのリサイクルの研究などをやりました。その後、北大に3年間勤務し、リサイクルや凍害、外断熱などの研究を行うかたわら、建築学会で建築設計ブリーフの研究などもやっています。学会では、平山先生のあと関東支部長を引き継ぎ、そこでは「美しくまちをつくる、むらをつくる」というまちづくりコンペを始めたりしました。この時には根上先生に大変お世話になりました。

これからは、日本大学で教育・研究に従事することになりますが、これまでやってきたことをベースに引き継ぎ研究にも微力を注ぎたいと思っています。

よろしく願い申し上げます。(ともさわふみのり)

略歴

1940年1月	横浜市生まれ
1963年3月	東京大学工学部建築学科卒業
1968年3月	東京大学大学院工学系研究科建築学専門課程博士課程退学
1968年4月	東京大学工学部助手
1970年2月	建設省建築研究所研究員
1970年3月	工学博士(東京大学)
1976年4月	建設省建築研究所第2研究部無機材料研究室長
1987年11月	東京大学工学部建築学科教授
1995年4月	東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授
2000年3月	同上退官
2000年4月	北海道大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授
2003年3月	同上退官

横河 健先生
(教授・建築設計)



略歴

- 1948年 東京に生まれる
- 1970年 ワシントン州立大学交換留学生
- 1972年 日本大学芸術学部卒業
- 1972年 黒川雅之建築設計事務所
- 1976年 設計事務所クレヨン&アソシエイツ設立
- 1982年 株式会社横河設計工房設立

主な作品と受賞歴

- 1978年 トンネル住居
- 1987年 警視庁日比谷公園派出所
(東京建築賞/都市計画局長賞)
- 1998年 平成ドミノ・塚
(日本建築士会連合会奨励賞)
- 1998年 グラスハウス
(日本建築学会賞(作品))
- 2000年 CESS/埼玉県環境科学国際センター
(BCS賞, JIA環境建築賞)



CESS/埼玉県環境科学国際センター



グラスハウス

2年前、理工学部の非常勤を退任するとき書いた文章がある。その時の気持ちを持続したまま今を迎えているので、恐縮だが再び載せることをお許し願いたい。

期待もした。落胆もした。怒りもした。悲しくもなった。でも興奮もしたし喜びもあった。早くからませたヤツもいれば、いつまでも子供のまものもいる。3年でダメなヤツが4年の卒業設計になって急に伸びた例もある。学生もイロイロだっということがよく分かった。

自分の学生時代を振り返ってみれば、何も分かっていない自分が恥ずかしかったことを今でも思い出す。分かっている振りをして後で懸命になって調べたことも何度もあるし、学友が何か難しい本を読んでいると同じものを後で買った。新しい材料を使った模型やパースの書き方などは懸命にそのテクニックを盗んだ。そんな学生時代だった自分が既に建築を目指している学生たちに向かって「そんなことも知らないのか?」とよく言えたものである。

僕は教えることが専門ではないけれど、こんなにも教えることが面白いモノかと思うときがある。学生は興味のあるものには目をキラキラさせるし、集団で何かに力を合わせると、とてつもないエネルギーを出すことがある。…中略… 学生にはもっと建築のドキドキ感を知らせたい。もし僕が再び教壇に立つことがあるとすれば、学生にはその興奮を、そして希望を持つこと明日の力を信じることを教えたい。

と、このように書いた。ふたたび大学に迎えられた今僕はそれを実践しようと思う。(よこがわけん)

川元美奈子先生
(副手)



今年度より副手をやらせていただきます川元美奈子です。

本大学大学院高宮研究室を修了後、インテリアのデザイン事務所勤務を経て、2年で再び学校に戻ることになり自分でも驚いています。

設計の副手というのは今年度より設けられた役職です。今までの設計の授業は、講師の方々とTAの間に各計画系の助手の方々がはいって行われてきましたが、今年度より助手に代わり副手が担当させていただきます。

1～4年生、TAをやってくださる院生の方々とも関わることが多いと思います。着任したばかりで、わからないことも多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆さまと共に成長していきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。(かわもとみなこ)

木内厚子先生
(副手)



この度、建築学科の副手となりました木内厚子です。

私は、日本大学理工学部海洋建築工学科を平成6年3月に卒業し、大学院は東京芸術大学美術学部の建築学科、修了後は両方とも現在日本大学の非常勤講師である佐藤光彦さん、その後は飯田善彦さんの設計事務所スタッフとして働き、1年ほど前よりまだまだ未熟ではありますが、独立して設計活動をしております。

主に設計の授業に携わることとなりますが、私も学生の時にはなかなかわからなかった「どうやったら建築となるのか」という本質的な部分を、学生の身近な存在となって伝えていけたらと思っています。

また授業等を通して、先生方や非常勤講師の方々から、そして若々しく柔軟性のある学生たちから、より多くのものを学びたいと考えております。(きうちあつこ)

宮里直也先生
(副手)



今春、大学院後期課程を修了し、このたび副手として大学に籍をおくことになりました。

小さい頃から「ものをつくる」ということに興味と感動を覚え、日本大学理工学部で建築を学んできました。学部時代から年々学ぶたびに建築への興味が深まり、建築学科に入学して本当に良かったと感じています。私はたくさんの専門分野がある中で、斎藤研究室に所属し、空間構造とよばれる分野で修士・博士と研究を進め、“空間構造の施工方法”に関する研究を行ってきました。

まだまだ建築の奥深さを日々実感しながら学んでいる途中ですが、学部時代から多くのことを学んだ大学への感謝の気持ちを大切に、専門の構造分野に限らず学生達のために精一杯頑張りたいと思っています。気軽に声をかけてください。よろしくお願ひ致します。

(みやさとなおや)

平成14年度 建築学科就職状況

建築学科就職事務室

平成15年3月

◆概況

景気不況感が濃い本年度でしたが、就職協定が廃止されたこともさらに拍車をかけ、ここ数年就職戦線は年々早期化しています。また、高度情報時代も定着、早期化傾向の求人の動きに対応したインターネットの活用は必修条件になっています。こうした社会の大きな流れの中で、学生が積極的に情報収集をし、企業側へ事前にアプローチすることが必要不可欠になりつつあり、企業も情報収集能力を試す傾向も強まっているようです。

本年度の求人数は昨年度より減少し、さらに就職状況が厳しいものになりましたが、中盤以降の学生諸君の頑張りもあり、全体としての就職率は前年度より向上しています。また、設計事務所を中心に、在学中のアルバイトなどによる社会との繋がりを通して就職している例もあり、表に出にくい事例もあり、日頃からの社会との接点を持つことが重要になっているようです。

大手ゼネコンは従来の学校推薦によるシステムを採用していますが、学校推薦といえども、リクレーターを通すなどして企業側で選抜したいという意志が年々強くなっているのが特徴として挙げられます。その為、学生本人による事前の積極的な意思表示がないと採用には結びつきません。また、それと併用する形でインターネット上での自由応募による活発な採用活動も同時に展開されるようになりました。採用時期も昨年度

表-1 就職状況の概要

注：()内は女子内数

	平成14年度			平成13年度		
	学部	大学院		学部	大学院	
		建築	不動産		建築	不動産
就職希望者数	193(57)	60(12)	6	355(86)	56(7)	12(1)
就職内定者数	152(41)	36(7)	4	211(52)	29(4)	8(1)
大学院進学者数(留学希望・その他含)	84(12)	7(2)	2(1)	95(23)	6(0)	2
就職・進学者数	236(53)	43(9)	6(1)	306(75)	35(4)	10(1)
求人会社数	559			889		

より早まり、自社で積極的に有能な人材を確保しようという企業の姿勢がうかがわれることは前述したとおりです。

住宅産業はインターネット上での自由応募が中心です。早期に会社説明会を複数回設定し、筆記試験によってきめ細かく学生の能力を問い、何回も面接を繰り返しながら人選し、採用を決定しています。会社側の判断による能力重視・人物評価型になっていることが、推薦区分の集計結果からもはっきり見ることができます。一方で、人材確保の為の企業間競争も激しく、数年前より学生の繋ぎ止めを見据え、大学側に学校推薦の発行を求める動きも見えています。

◆求人会社の状況

はじめに、本年度の就職内定状況を昨年度の同時期と比較して表-1に示す。前年度と比較して求人会社

数に関しては減少(889社→559社)し、ここ数十年の間で最も求人数の少ない年となりました。求人会社数の減少の主な内容は、コンピュータ・情報関係(128社→44社)と製

表-2 月別求人件数 注:再募集は除く

	平成14年度	平成13年度
1月	39	8
2月	69	143
3月	164	302
4月	117	160
5月	87	87
6月	26	90
7月	26	41
8月	13	16
9月	8	31
10月	4	8
11月	0	0
12月	2	0
1月	3	0
2月	1	3
合計	559	889

表-3 求人・内定者の内訳

	求人会社数				内定者数								内定者 数割合
	大企業	中企業	小企業	計	大企業		中企業		小企業		計		
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
A 建設業	57	44	36	137	23(3)	8	10(2)		4(1)		37(6)	8(0)	16.1
B 住宅・不動産	22	33	11	66	42(4)	3	18(5)	1	9(4)		69(13)	4(0)	26.2
C 設備	20	18	12	50	4(3)		1				5(3)	0(0)	1.8
D 設計事務所・インテリア	10	23	39	72	3(1)	2	3	4(1)	10(7)	5(3)	16(8)	11(4)	9.7
E 建材・エンジニアリング	19	11	7	37	6(2)	2	1	1	1(1)	2	8(3)	5(0)	4.7
F コンピュータ・情報	17	20	7	44	1	2(1)	3(2)	1	1		5(2)	3(1)	2.9
G 製造業・営繕・その他	42	46	6	94	2(1)	1	2		4(4)		8(5)	1(0)	3.2
小計				500	81(14)	18(1)	38(9)	7(1)	29(17)	7(3)	148(40)	32(5)	64.5
H 官公庁・大学				16							3(1)	2(2)	1.8
法人				43							1	2	1.1
I 進学 (大学院・研究生・留学・その他)											84(12)	7(2)	32.6
J 自営業													0.0
総計				559							236(53)	43(9)	100.0
											279(62)		

以下の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注：大企業…従業員500名以上，中企業…従業員100名以上，小企業…従業員99名以下，()内は女子内数，求人会社数…再募集は除く。

造業・営繕・その他（220社→94社）が目立っています。

求人の時期に関しては、表-2に月別求人件数を示す。建築学科の求人申し込みは、ここ数年3月に集中（164社）しています。平成13年度は求人のピークは2月～6月でしたが、14年度は2月～5月に集中し6月以降での求人は大幅に減少する傾向が見られました。この傾向は今年も見られることが十分予想されます。特に住宅産業や組織設計事務所は年々早期化しているので注意が必要です。

◆就職内定者の内訳

本年度は就職希望者の積極的な活動の結果、昨年度と比較すると就職希望者数に対して内定者数は増加しました。内定者数の傾向は、建設業（11.4%→16.1%）や設計事務所・インテリア（6.5%→9.7%）が増加しましたが、住宅産業（36.4%→

26.2%）が大幅に減少しています。減少傾向とはいえ、昨年度と同様、住宅産業は進学者を除く内定者の内訳では30.9%に達し、建設業内定者（23.9%）など他業種と比較しても大きな割合を占めています。しかし、住宅産業は営業に携わった卒業生に転職が目立つことが気になるところです。そのほか、一時期に伸びを見せていた製造業の内定者数割合も、求人数と共に昨年、一昨年より減少傾向にあるのが特徴的です。

◆平成15年度の就職戦線へ向けて

就職協定が廃止されてから、大手企業には少数精鋭の人材を確保したいという狙いが見えるようになりました。企業からの求人は人数を指定して学校推薦を依頼してくるだけでなく、これとは別に自由応募枠を設けて、学校推薦・自由応募併用という企業がほとんどです。その為、イン

ターネットでの就職情報配信によって求人募集をしている企業が多くなりました。それに対応する為、建築学科としても「就職ホームページ」の開設やEメールでの情報提供など、就職希望者にとって就職情報を入手しやすい環境を整備しています。しかし、これに対して学生からのアプローチが少なく、これらの情報が充分伝わっていないように思われます。内定を得るためには、まず各自で積極的に情報を収集し、企業にアプローチすることが大切です。

平成15年度の就職戦線は、依然として厳しい状況が予想されます。就職先を特定の企業にこだわらず、柔軟な考え方も広い視野をもって就職活動に臨んで下さい。早めに研究室の先生とも相談し、十分な対策を立てて採用試験に臨むことを期待します。（平成14年度就職担当：教授・石丸辰治，事務担当：矢萩有美子）

表一 4A 就職先の内訳〈建設〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
竹中工務店		1							0	1	松井建設								1		1	0
清水建設		1						1	1	1	大木建設	1									1	0
鹿島建設		1		1					0	2	西武建設			1							1	0
大成建設	2				1(1)				3(1)	0	日本建設								1		1	0
戸田建設	1	1							1	1	横河工事			1							1	0
フジタ								1	1	0	内野建設								4		4	0
西松建設	2								2	0	東武谷内田建設					1					1	0
安藤建設								1	1	0	第一ヒューテック			1							1	0
奥村組								2	1	2	1	0	0						1		1	0
穴吹工務店	1(1)								1(1)	0	塩谷建設					1(1)					1(1)	0
東急建設						1			0	1	新昭和								1(1)		1(1)	0
長谷工コーポレーション		1						1	1	1	清賀建設								1		1	0
森本組	1								1	0	吉岡建設					1					1	0
住友建設					1				1	0	中藤建設					1					1	0
大鉄工業	1								1	0	エム・ワン								1(1)		1(1)	0
大倉建設								3(1)	3(1)	0												
総計	9(1)	5(0)	3(0)	1(0)	6(2)	1(0)	19(3)	1(0)	37(6)	8(0)												

表一 4B 就職先の内訳〈住宅・不動産〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
積水ハウス				1			7(1)		7(1)	1	ゴールドクレスト								1		1	0
旭化成ホームズ							1		1	0	東栄住宅								2		2	0
大和ハウス工業							5(1)		5(1)	0	住友林業ホームサービス								1(1)		1(1)	0
住友林業							3		3	0	東京セキスイファミエス								1(1)		1(1)	0
ミサワホーム								1	0	1	日本ホームズ									1	0	1
大東建託							3		3	0	ミサワホーム福島								1		1	0
三井ホーム			1				2		3	0	セキスイハイム神奈川								1		1	0
トステム							4	1	4	1	セキスイハイム信越								1		1	0
ペイントハウス							3		3	0	セキスイハイム山梨								1		1	0
富士ハウス							2(1)		2(1)	0	ホームイング								1		1	0
東京ミサワホーム							1		1	0	ちばりハウス								1(1)		1(1)	0
住友不動産販売							1(1)		1(1)	0	エム・シー・コーポレーション								1(1)		1(1)	0
東急リパブル							1		1	0	アーバンコーポレーション								1		1	0
スウェーデンハウス							2		2	0	ケン・コーポレーション								1		1	0
中央住宅							1		1	0	HOUSE								2(1)		2(1)	0
藤和不動産							1		1	0	セキスイファミエス東海								1		1	0
日本ハウジイング							1		1	0	野村土地建物								1		1	0
日本管財							1		1	0	スターツホーム								1		1	0
エフ・ジャー・ネクスト							1		1	0	ダイヤモンドハウス								1(1)		1(1)	0
長谷工アーベスト							1		1	0	オガワホーム								1(1)		1(1)	0
南富士産業							2		2	0	ユニオン建材ビルダー						1(1)				1(1)	0
明和地所							2(1)		2(1)	0	フルハウス								1		1	0
総計	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)	1(1)	0(0)	67(12)	3(0)	69(13)	4(0)												

表一4C 就職先の内訳(設備)

注: 株は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
タカスタンダード							1(1)		1(1)	0	フジマック								1(1)		1(1)	0
大気社							1		1	0	昭電								1		1	0
松下設備システム							1(1)		1(1)	0												
総計											0	0	0	0	0	0	0	0	5(3)	0	5(3)	0

表一4D 就職先の内訳(設計事務所・インテリア・コンサルタント)

注: 株は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
桂設計				1(1)					0	1(1)	渡辺明設計事務所				1(1)						0	1(1)
久米設計								1	0	1	協立建築設計事務所	1(1)							1(1)		2(2)	0
NTTファミリーーズ				1					0	1	ストラテジック・インテリジェント									1	0	1
石本建築設計事務所								1	0	1	ラックランド								1		1	0
丹青社								1	1	0	アデイスミューズ								1		1	0
構造計画プラスワン				1					0	1	現代建築研究所						1				1	0
I A O 竹田設計								1(1)	0	1(1)	三上建築事務所			1(1)							1(1)	0
類設計室								1	1	0	MS WORK architecture			1(1)							1(1)	0
ア・ファクトリー								1(1)		1(1)	長谷建築設計事務所									1(1)	1(1)	0
池下設計					1				1	0	大森一級建築士事務所									1(1)	1(1)	0
日総建									1	0	1	三輪設計事務所								1(1)	1(1)	0
スペース									1	0	1	希望社								1	1	0
日本E. R. I						1(1)				1(1)	包建築設計工房									1	1	0
総計											1(1)	0	2(2)	4(2)	2(0)	1(1)	11(5)	6(1)	16(8)	11(4)		

表一4E 就職先の内訳(建材・エンジニアリング)

注: 株は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
神鋼鋼線工業				1					0	1	ウッドワン								1		1	0
フクビ化学工業								1	0	1	コマニー								1		1	0
不二サッシ								1	1	0	フィグラ										0	1
サンウェブ工業								1(1)	1(1)	0	ヤクモ工業				1						0	1
立山アルミニウム工業								1	1	0	ヤクモ				1						0	1
日本調理機								1(1)	1(1)	0	丸新建材								1(1)		1(1)	0
大興物産								1	1	0												
総計											0	0	0	4	0	0	8(3)	1	8(3)	5		

表一4F 就職先の内訳(コンピュータ・情報)

注: 株は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
鉄道情報システム								1	0	1	エーアンドエー								1	0	1	
NTTデータ東京SMS								1(1)	0	1(1)	メトロ								1(1)		1(1)	0
アイ・イーグループ								1	1	0	エーシーテック						1(1)			1(1)	0	
アジアネットワークシステム								1	1	0	エフアットコミュニケーションズ								1		1	0
総計											0	0	0	0	1(1)	0	4(1)	3(1)	5(2)	3(1)		

表－4G 就職先の内訳〈製造業・営繕・その他〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		
日立製作所							1	0	1	ユーラシア旅行社							1(1)		1(1)	0
アシックス							1		0	平成レイサービス							1(1)		1(1)	0
静岡ガス					1(1)				0	日都産業							1(1)		1(1)	0
キャブラン							1		0	シマダトレーディング							1(1)		1(1)	0
ムラヤマ							1		0											0
総計	0	0	0	0	1(1)	0	7(4)	1	8(5)	1										

表－4H 就職先の内訳〈官公庁・法人〉

注：(財)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院				
経済産業省							1(1)	0	1(1)	日本大学理工学部副手				1					0	1
千葉県警察							1		0	日本大学短期大学部副手			1						1	0
秦野市役所							1	1(1)	1(1)	文化財建造物保存技術協会							1		0	1
富士市役所							1(1)		0											0
総計	0	0	1	1	0	0	3(1)	3(2)	4(1)	4(2)										

表－4I 就職先の内訳〈進学〉

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
日本大学大学院	54(8)	1(1)	55(9)
東京大学大学院	1		1
東京都立大学院	1		1
法政大学院	1		1
千葉大学	1		1
留学希望	4(1)	1	5(1)
その他	22(3)	5(1)	27(4)
総計	84(12)	7(2)	91(14)

表－5 企業内定の応募方法

	学部	大学院	計	比率
教室推薦	10	5	15	8.3
研究室推薦	6	10	16	8.9
縁故推薦	11	2	13	7.2
自由応募	121	15	136	75.6
総計	148	32	180	100.0

注：官公庁、法人、大学院進学、自営業を除く

◆就職活動はもう始まっています

就職活動は未来形ではなく進行形です。友人や先輩の中には、もう内定をもらっている人もいます。建設業界が目下どのような状況になるかは、新聞や株価等の情報で皆さんも理解していると思います。そうした中で、より適切な人材を求めて、企業側は年々求人活動を早めています。ついに今年は、公務員試験まで早まってしまいました。卒業研究（修士論文）や卒業制作（修士設計）などのテーマもまだ決まっていない内に、就職先を具体的かつ現実的に考えることは辛いことかも知れません。しかし、ここからが皆さんの活躍の場なのですから、しっかりと目標を持って自分の進む道について考えることが必要です。

スクラップ&ビルドの時代から長寿命、省エネルギー、サステナブル、リサイクル、コンバージョン等といったキーワードが建築においても大変重要な意味を持つものとなってきました。これに伴って、建設関係の業態も少しずつ変化しています。それは、皆さんにとっても新しいビジネスチャンスです。今まで脚光を浴びてきた業種だけでなく、これからの社会動向を展望しながら幅広く自分の可能性を広げていくことも考えられます。公務員試験合格者の

数も増える傾向になりますし、公共の担う役割を考えると、こうした分野にもどんどん積極的に挑戦して欲しいと思います。海外の企業も選択肢の一つです。

先輩のリクレーターや就職担当窓口の方たちから聞く求人は、以下のようなイメージに集約されます。

- ①専門知識・専門能力があること
- ②コミュニケーション能力があること
- ③積極的に仕事に取り組む意欲を持っていること
- ④社会人としての常識・礼儀をわきまえていること

就職なんてまだ先だと考えている人たちも、こうしたことを念頭に入れて普段から勉学に励んで欲しいと思います。その時になってから「あの時にもっと勉強しておけば良かった」などと言わないために、目の前の目標を一つずつクリアして行って下さい。もし「あの時にもっと勉強しておけば良かった」と思ったら、その時が勉強するチャンスです。自分の適性や常識度をチェックし、長所短所を見つめ可能性を高めていくためにも、大学が用意してくれている公務員講座やSPI（適性テスト）等にも取り組んで下さい。

(平成15年度就職担当、本杉省三)

平成14年度各賞受賞者一覧

優等賞

9145 鈴木智香子 (今村研究室)	9140 杉浦 智也 (高宮研究室)	1125 森田 香織 (短期大学部)
9218 平野 貴紀 (斎藤研究室)	9201 根本 直樹 (若色研究室)	1017 牛澤 千佳 (短期大学部)
9271 米川 陽子 (岡村研究室)	9044 近江 大輔 (小嶋研究室)	1011 伊藤 淳史 (短期大学部)
9193 永野 裕美 (井上研究室)	9040 大島 智史 (三橋研究室)	1117 松本 広一 (短期大学部)

齋藤賞

M-1036 末岡佐江子 「東京外国語大学跡地における都市再生住宅と公園の設計」	指導：高宮真介教授
M-1034 下村 修一 「エネルギーの釣合に基づく液化化判定に関する実験的研究」	指導：安達俊夫教授

駿建賞

M-1014 大森 紘子 「自然風の性状把握及び心理応答評価に関する基礎的研究」	指導：関口克明教授
M-1013 大西 正紀 「〈地域サービスステーション〉の設計—世田谷区における既存ガソリンスタンドの活用—」	指導：高宮真介教授
M-1022 北野 知裕 「グループ診療所の建築計画に関する研究」	指導：野村 歡教授
M-1043 夢田 吉宏 「四谷若葉地区・地域福祉センターの設計」	指導：今村雅樹助教授

駿構賞

M-1016 小倉 史崇 「張弦シザース構造の仮設建築物への適用に関する研究」	指導：斎藤公男教授
M-1059 三島 隆路 「RC造柱・梁接合部の破壊モードと変形性状に関する2次元および3次元有限要素解析」	指導：白井伸明教授

桜建賞

〈卒業研究〉 9049 小木未乃理 1813 小沢 純子 「仮想音源分布の3次元アニメーションによる音場の可視化手法に関する研究」	指導：関口克明教授, 羽入敏樹 (短大) 専任講師
9010 荒木 保正 9126 島田 恭利 9231 前田 雄己 9241 宮崎 真	指導：野村 歡教授, 八藤後 猛助手
「家庭内における幼児の墜落事故防止に関する研究」	
9223 藤田 和典 9190 中西 亮 9263 山中 祐一 「アンブレラダンパーに関する研究」	指導：石丸辰治教授
9082 河村 準 「複相構造を考慮したコンクリートのひび割れ解析に基づく破壊メカニズムの検討」	指導：白井伸明教授
〈卒業制作〉 9145 鈴木智香子 「うきうきほいく」	指導：今村雅樹助教授, 井上勝夫教授
9018 石崎 哲也 「Speed Adjustment Architecture」	指導：今村雅樹助教授, 蜂巣浩生専任講師
〈短期大学部卒業制作〉 1003 安藤 誉 「東京大空襲平和記念館」	指導：田所辰之助専任講師, 岡田 満助教授
1013 稲垣 直秀 「POINT⇒LINE⇒[SUR]FACE—分散型アートギャラリーによる地下空間の連結」	指導：田所辰之助専任講師, 岡田 満助教授

奨励賞

- 〈修士論文〉 M-1038 瀬尾 雅之 「クメール宗教建築アンコール期における造営技術の発展過程に関する研究」 指導：片桐正夫教授
M-1061 宮田 真紀 「張力膜構造のポンディング現象に関する基礎的研究」 指導：斎藤公男教授
〈卒業制作〉 9197 西崎 暢仁 「中野ブロードウェイ再開発プロジェクト」 指導：今村雅樹助教授、安達俊夫教授

企画奨励賞

- 9215 半田 良記 (三橋研究室) 9249 森田 貴良 (岡村研究室) 9276 渡邊 健 (三橋研究室)
「Urban planning in Nakano The planning of community landscape」 指導：三橋博巳教授

駿建コンペティション業績賞*1

- M-1043 多田 吉宏 今村研究室

桜工賞

- M-1057 星野 諭 「千代田区の児童館及び小学校でワークショップやまち学習など地域ボランティア活動」 関澤研究室
9020 石渡 洋充 「(株)都市開発技術サービス主催の坪井地区街並みデザインアイデアで最優秀賞受賞」 小嶋研究室
9053 小内 慶二 「習志野空手部で主将を務め、大会に対する貢献と後輩の指導に対する功績」 井上研究室
9117 佐藤 裕子 「卒業アルバム作製委員として、中心的な活動」 斎藤研究室
9213 半澤 哲 「平成13年度学部祭で建築展及び建築講演会実行の責任者として活躍」 本杉研究室
9243 村瀬 聡 「(社)東京建築士会主催の2002年度建築設計競技「住宅課題賞」で優秀賞を受賞」 若色研究室
1809 市嶋 桂子 「日本大学吹奏楽研究会に4年間所属、入学式等大学・学部の行事にボランティアで貢献」 井上研究室
1035 木曾 耕平 「1,2年次クラス幹事を務め、また、卒業アルバム代表委員として活躍」 短期大学部
1053 後藤あゆみ 「チューターとして留学生のため、積極的に貢献」 短期大学部
1070 須崎 晴菜 「オープンキャンパスなど学部行事で短期大学部PRに貢献」 短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*2

- M-1007 星野 誠 「市民農園の開園・運営体制に関する研究—東京都練馬区をケーススタディとして—」
指導：小嶋勝衛教授、根上彰生助教授、宇於崎勝也専任講師

日本環境管理学会・木村賞*3

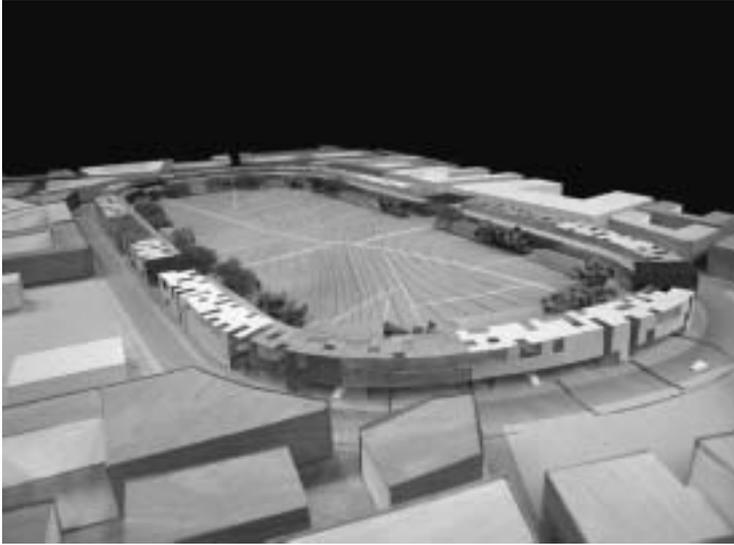
- M-1006 古郡ゆう子 「市街地土壌汚染の実態と処理方策に関する研究—民間土地取引に与える影響に着目して—」
指導：三橋博巳教授、田中啓一兼任教授

*1 近江栄名誉教授から寄贈された基金による。

*2 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に、平成8年度で定年(平成10年3月1日死去)となられた佐藤進非常勤講師(元・専任教授)から寄せられた基金、平成11年度で定年となった浅香勝輔非常勤講師(元・専任教授)から寄せられた基金を加え、不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。例年2点を推薦するが、本年は1点のみとした。

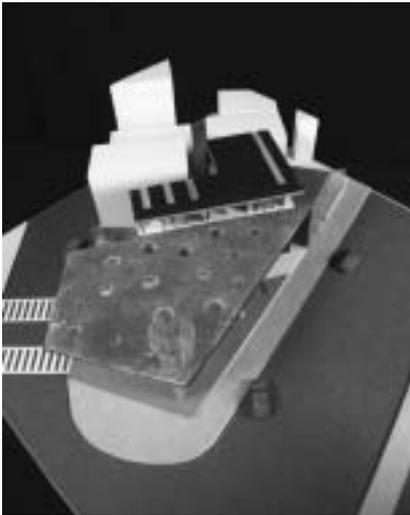
*3 日本環境管理学会名誉会長 木村宏先生(元・専任教授)から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により、大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。(平成7年度新設、旧・日本環境管理学会会長賞)

齋藤賞 修士設計



東京外国語大学跡地における都市再生住宅と公園の設計／末岡佐江子

駿建賞 修士設計



〈地域サービスステーション〉の設計—世田谷区における既存ガソリンスタンドの活用—／大西正紀



四谷若葉地区・地域福祉センターの設計／夢田吉宏

平成14年度修了生・卒業生 就職先・研究課題一覧

大学院博士後期(博士)課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目	
齋藤公男教授 ————— ・建築学専攻・				
D-0004	宮里 直也	日本大学理工学部	建築におけるケーブル構造の特性と施工方法に関する研究	
白井伸明教授 ————— ・建築学専攻・				
D-0005	渡部 憲	東急建設株式会社 (社会人大学院)	高韌性セメント複合材料の開発と耐震壁への応用	
横内憲久教授 ————— ・不動産科学専攻・				
D-9001	吉田 誠	森トラスト株式会社 (社会人大学院)	超高層マンションの眺望景観に対する隣棟の影響に関する研究	

大学院博士前期(修士)課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目	
安達俊夫教授 ————— ・建築学専攻・				
M-1031	佐藤 浩介	株式会社長谷工コーポレーション	軟弱地盤における戸建住宅基礎の沈下挙動に関する基礎的研究	
M-1034	下村 修一	鹿島建設株式会社	エネルギーの釣合に基づく液状化判定に関する実験的研究	
石丸辰治教授 ————— ・建築学専攻・				
M-1002	東 義敬	積水ハウス	ゴム球免震システムの性能評価に関する研究	
M-1019	蕪木 杏子	秦野市市役所	トグル制震装置の実大実験に関する研究—異なるダンパー装着による性能差について—	
M-1046	西塚 正	ヤクモ株式会社	弾塑性コイルばねを利用した制震装置に関する研究	
M-1048	西村 陽介	株式会社奥村組	免震デバイスを用いた高次モード制御の可能性について	
井上勝夫教授・橋本 修専任講師 ————— ・建築学専攻・				
M-1007	石田 剛彦	ヤクモ工業株式会社	大型スラブを対象とした重量床衝撃音発生系の検討と予測計算法に関する研究	
M-1020	川又 周太	フクビ化学工業株式会社	歩行感と転倒時の安全性を考慮した住宅床の仕上げ構造に関する研究	
片桐正夫教授 ————— ・建築学専攻・				
M-1023	キムデジュン	荒川建設工業株式会社	韓国の都心における近代建築物の保存再生手法に関する研究—ソウルの中区にある近代建築物の保存再生計画手法を中心として—	
M-1026	小島 陽子	大学院博士後期(博士)課程進学	クメール建築の伽藍構成および設計手法に関する一考察—イースト・メボンとプレ・ループにおける寸法基準及び施工手順の分析を中心として	
M-1038	瀬尾 雅之	財団法人文化財保存技術協会	クメール宗教建築アンコール期における造営技術の発展過程に関する研究	
小嶋勝衛教授・根上彰生助教授・宇於崎勝也専任講師 ————— ・建築学専攻・				
M-1050	河 政孝	未定	慶州市の文化財指定・保護区域における生活環境改善に関する研究	
齋藤公男教授・黒木二三夫(短大)助教授・岡田 章専任講師 ————— ・建築学専攻・				
M-1004	安藤 伸敏	鹿島建設株式会社	ストリング補剛されたアーチ架構の構造性能に関する基礎的研究	
M-1015	緒方誠二郎	東京工業大学大学院	可展式トラスドームの開発～施工時の形態変化と構造挙動について～	
M-1016	小倉 史崇	株式会社竹中工務店	張弦シザース構造の仮設建築物への適用に関する研究	

M-1024	木村 純	日立製作所	密閉型小規模高ライズ空気膜構造の力学性状に関する研究—内圧変動を考慮した構造性能の評価—
M-1033	下田 典大	戸田建設㈱	矩形平面を持つ可動式屋根の計画と設計
M-1039	高橋 寛和	構造計画プラスワン	補剛ケーブルをもつ片持梁構造の動的基本性状と制御に関する研究
M-1042	竹内 一博	神鋼鋼線工業㈱	テンセグリック・トラス (Type III) のガラスファサードへの適用について
M-1045	中山 和之	㈱NTTファシリティーズ	張弦梁構造の座屈性状に関する基礎的研究
M-1058	堀田 雄士	structured environment	多雪地域における張弦ドームの構造計画に関する研究
M-1061	宮田 真紀	日本E.R.I.㈱	張力膜構造のボンディング現象に関する基礎的研究
M-1062	宮田 義之	㈱フィグラ	ガラスファサードに用いるテンション・トラスの構造特性に関する基礎的研究

白井伸明教授 ————— ・建築学専攻・

M-1059	三島 隆路	清水建設㈱	R C造柱・梁接合部の破壊モードと変形性状に関する2次元および3次元有限要素解析
--------	-------	-------	--

関口克明教授 ————— ・建築学専攻・

M-1014	大森 紘子	経済産業省	自然風の性状把握及び心理応答評価に関する基礎的研究
M-1027	小林 憲治	㈱スペース	周辺部を考慮した夜間街路の光環境に関する研究
M-1049	野中 太郎		夜間における都市空間構成要素の評価—場所の認知からみたライトアップのあり方—
M-1051	姫野 会里	NTTデータ東京SMS	高齢者施設における入居者の行動と光環境に関する調査研究

関澤勝一教授 ————— ・建築学専攻・

M-1009	岩井 敬子	I A O竹田設計	東京都区立小学校校地内における生涯学習空間に関する事例研究
M-1028	崔 長松		千葉市立小学校における学校施設の安全管理に関する研究
M-1030	佐藤 和孝	A & A	東京都世田谷区における小学校の遊び場利用に関する研究
M-1057	星野 諭		児童の参画による地域共生型小学校計画に関する研究—千代田区立富士見小学校を対象として—
M-9004	雨宮 智也		高齢者サービスセンターと小学校の複合形態よりみた高齢者および児童の交流意識の研究

高宮眞介教授 ————— ・建築学専攻・

M-1006	飯田 真弘	未定	Kanazawa Public Library—大学との複合による学習拠点としての図書館の設計—
M-1013	大西 正紀	未定	〈地域サービスステーション〉の設計—世田谷区における既存ガソリンスタンドの活用—
M-1036	末岡佐江子	渡辺明設計事務所	東京外国語大学跡地における都市再生住宅と公園の設計
M-1041	滝川 祐介	未定	廃棄物回収拠点を核としたリサイクルセンターの設計
M-1044	戸内広太郎	㈱久米設計	京島3丁目地区における建て替え住宅の設計
M-1054	平山 香	未定	AGRI-ECO Museum—農業をととした環境体験学習施設の設計—
M-1063	山下 祐平	未定	東京シティ・エアターミナルのコンバージョン計画

野村 勲教授 ————— ・建築学専攻・

M-1022	北野 知裕		グループ診療所の建築計画に関する研究
M-1040	高橋 祐介		視覚障害者誘導用ブロックの色彩に関する研究
M-1047	西村 顕		車いす使用者に対する介助容易性を考慮した設計方針の考察—高齢者・障害者が居住する住宅の「屋外アクセス環境整備」に関する研究

半貫敏夫教授 ————— ・建築学専攻・

- M-1012 大久保紀彦 トステム(株) 南極昭和基地居住区周りのスノードリフト対策
 M-1032 佐藤 康典 鉄道情報システム(株) 建物壁面の片持梁に作用する積雪沈降荷重に関する数値解析的研究

平山善吉教授 ————— ・建築学専攻・

- M-1056 古林 剛 ミサワホーム(株) 既存木質住宅の耐震補強に関する実験的研究—格子状耐力壁の仕様と剛性制御—

本杉省三教授 ————— ・建築学専攻・

- M-1011 梅田 綾 未定 ヨコハマにしアートプレイス—東急東横線横浜駅跡地空間の再生—
 M-1025 日下部寛之 (株)日総建 秋葉原電腦商売創作支援倶楽部
 M-1052 平井 直樹 未定 U C A M : 東京芸大図書館+情報芸術研究所
 M-1060 水野 聡 東急建設(株) 演劇活動において民間劇場が果たした役割—20世紀後半における日生劇場・紀伊國屋ホールの活動を中心とした考察—
 M-0039 新野 高史 (株)ヴァンクラフト 空間環境設計 演劇活動と稽古場の利用実態に関する考察—東京圏の劇団アンケート調査と稽古場実例調査を通して—

若色峰郎教授 ————— ・建築学専攻・

- M-1005 飯田 秀人 未定 公的機関によるS O H O事業に対応した集合住宅の住戸計画に関する基礎的研究
 M-1017 押田佳代子 (株)桂設計 都営住宅団地「堀ノ内アパート」建て替え計画—ソーシャルミックスを目指した住宅団地の再生—
 M-1021 木崎 裕一 未定 江東区東雲小学校再生計画—多世代交流の場をめざした小学校の提案—
 M-1029 佐々木文英 日本ホームズ(株) 利用目的に合わせて転換するプールの空間構成について—大規模競技型屋内プールの建築計画に関する研究—

今村雅樹助教授 ————— ・建築学専攻・

- M-1037 角田 遊 松戸市健康スポーツセンターの設計
 M-1043 夢田 吉宏 石本建築事務所 四谷若葉地区地域福祉センターの設計
 M-1053 平田 真貴 そののうコミュニティハウジング—子どもの活動に重点を置いた市営団地の設計—

宇杉和夫助教授 ————— ・建築学専攻・

- M-1003 新井豪次郎 成長期における個室とコモンスペースの居住形式に関する研究

小嶋勝衛教授・根上彰生助教授・宇於崎勝也専任講師 ————— ・不動産科学専攻・

- M-1001 謝 宜哲 未定 台湾の区段徴収制度に関する研究—ケーススタディの分析—
 M-1003 長岡 篤 未定 都心部における公開空地の整備方策に関する研究—東京都総合設計制度の実態にもとづいて—
 M-1004 中野 智治 昭和地所(株) 住民資本参加によるまちづくりに関する研究—地方債制度における住民公募債に着目して—
 M-1007 星野 誠 国土交通省(Ⅱ種) 市民農園の開園・運営体制に関する研究—東京都練馬区をケーススタディとして—
 M-1008 吉田 充則 住友信託銀行(株) 東京都千代田区における住宅付置制度の効果と運用方策に関する研究

三橋博巳教授 ————— ・不動産科学専攻・

- M-1005 長谷川育生 未定 都市の高密化による環境負荷削減効果に関する研究

M-1006 古郡ゆう子 日本航空株 (社会人大学院) 市街地土壌汚染の実態と対策に関する研究—民間土地取引における諸問題を中心に—

横内憲久教授 ————— ・不動産科学専攻・

M-1002 菅谷 彰夫 大成建設株 ウォーターフロントにおける開発手法に関する研究—中小都市における港湾からの地域活性化の検討—

学部

氏名の右肩*印は企画経営コース、無印は建築学コースを表す。

学生番号 氏名 進路・就職先 論文題目

安達俊夫教授・山田雅一助手

9009	天野 晃司	(株)アシックス	締め砂杭により改良した砂質地盤の土槽載荷実験に関する研究—Weibull曲線による荷重沈下特性—	 
9097	樽林 陽介	内野建設株	セメント改良土の強度・変形特性に関する研究—砂質改良土の微小ひずみでの変形特性—	
9105	齋藤 慎吾	日本大学大学院	} 2 質点仮動的実験手法による液状化発生時の地震動強さに関する研究	
9159	高梨 裕介	大木建設株		
9240	見辺 純一	スターツホーム株		
9121	品田 大地	秦野市役所	} 地盤の液状化による戸建住宅の被害に関する研究	
9134	荘司 友紀	富士ハウス株		
9124	芝山 恵子	(株)メトロ	} 軟弱地盤における戸建住宅の不同沈下に関する研究	
9131	志村 晃一	日本大学大学院		
9127	清水 顕	大東建設株	広範囲なひずみ領域における地盤材料の非線形モデルに関する研究—砂のダイレイタンス特性—	
9151	関屋 芳洋	三井ホーム株	セメント改良土の強度・変形特性に関する研究—砂質改良土の排水せん断強度の推定—	

石丸辰治教授・石垣秀典助手

9036	遠藤 克彦	未定	} トグル制震装置の実大実験に関する研究 —一面外方向変形量を考慮した場合の制震性能について—	 
9106	齋藤 正芳	日本大学大学院		
9230	前島 正幸	(株)昭電	} アンブレラダンパーに関する研究	
9190	中西 亮	大成建設株		
9223	藤田 和典	日本大学大学院		
9263	山中 祐一	日本大学大学院	} 粘性ダンパーを組み込んだ亀壁制震壁の基本特性に関する研究	
9198	西澤 裕二	セキスイハイム信越株		
8253	藤本 和邦	未定		

井上勝夫教授・橋本 修専任講師・富田隆太助手

9025	稲田 素子	日本大学大学院	} 転倒時の安全性と歩行感からみた住宅床に関する研究	  
9154	高木 聡	(株)アディスミューズ		
9182	外山 沙織	タカラスタンダード株		
9270	吉見佳代子	(株)穴吹工務店		

9031	植竹 由佳	大森建築事務所	}	住宅性能表示制度と供給者及び消費者の住宅性能に対する要求と現状
9162	高橋 亮	西武建設㈱		
1814	片岡 和秀	㈱ウッドワン		
9042	大竹さやか		}	S I 住宅における乾式二重床の床衝撃音の発生系に及ぼす要因の検討
9116	佐藤 伸俊	日本大学大学院		
9053	小内 慶二	積水ハウス㈱	}	小学校建築の音環境に関する研究～オープンスペースの使われ方と発生音の軽減の対策と検討～
9132	志茂 香織	積水ハウス㈱		
9166	高山 好成	三井ホーム		
9062	片平 信	ミサワホーム福島	}	建築物内における電界強度と無線LAN通信に関する実験的検討
9161	高野 洋一	日本大学大学院		
1809	市嶋 桂子			
9096	倉田 将英	住友林業㈱	}	建築空間に応じた電気音響設備による拡声方法についての基礎的研究～公共空間内の音声伝達による避難誘導～
9220	福富 仁子	静岡ガス		
9224	藤田加奈子	㈱協立建築設計事務所		
9257	山口 陽子		}	大型スラブを対象とした重量床衝撃音予測計算法に関する研究
9258	山崎 大輔	日本大学大学院		
9191	中山 真悟	松井建設㈱		
9193	永野 裕美	㈱フジマック		

片桐正夫教授・大川三雄専任講師(※の指導)・

重枝 豊専任講師・浜島一成(短大)非常勤講師



9004	赤尾 暢夫	積水ハウス㈱	押板式床の間から 床框式床の間への移り変わりの研究
9011	池田 裕紀	留学希望	アンコール遺跡の楼門における屋蓋構造の変化に関する一考察—東メボンとプレ・ループを中心として—
9103	小柳 洋太	アルバイト	鶴岡八幡宮の伽藍配置の変遷について
9111	坂野 弘樹	㈱アーバンコーポレーション	建長寺伽藍の配置計画について—建長寺古指図の分析を中心として—
9113	佐藤 豪人		アンコール遺跡の楼門と周壁の造営年代に関する一考察
9149	関崎 琢也		アンコール遺跡の倉庫についての研究
9229	本多 義隆	積水ハウス㈱	創建法成寺における諸堂の配置に関する一考察
9268	吉留 哲也		千利休による茶室の草庵化に関する研究—妙喜庵待庵を中心とする—
1819	金野 嘉子		京町家における空閑地の変遷について—古図面からみた坪の内—
1825	高橋 一	アルバイト	クメール建築の窓の種類と構成に関する一考察
9019 ※	石橋 菜穂	日本大学大学院	茂原市における近代建築の現状とその傾向
9047 ※	小川 鉄平	㈱ムラヤマ	村野藤吾の建築観と建築作品にみる材料及びディテールに関する考察
9064 ※	加藤明日香	日本大学大学院	カミロ・ジッテ (1843～1903) の近代都市計画史上における位置づけとその影響
9078 ※	川崎宇希子	日本大学大学院	近代建築家・吉田鉄郎の日本建築観に関する研究—著作『DAS JAPANISCHE WOHNHAU』の改訂を中心とする考察—
9083 ※	川村 大祐	東急ホーム㈱	軽井沢における洋風別荘の開発に関する研究
9169 ※	武田美津恵	三上建築事務所	大正期から昭和初期の住宅インテリア観の変遷—雑誌『住宅』を中心とする考察—
9181 ※	戸田 文絵	M'S WORKS	ファシズム期ドイツ建築が日本人建築家に与えた影響に関する研究—岸田日出刀、佐藤武夫、谷口吉郎を中心とする考察—
9245 ※	室伏 潤	富士ハウス㈱	「空間」と「間」の概念に関する考察—日本の建築空間論の可能性—
9273 ※	和気 徹	㈱高村デザイン事務所	商店建築のパイオニア・川喜田煉七郎のデザイン理論と店舗設計手法について

1805 ※ 新居 樹 立山アルミニウム工業㈱ 今和次郎が提唱した考現学の今日的意義について

小嶋勝衛教授・根上彰生助教授・宇於崎勝也専任講師



9001	相羽 智志*	大和ハウス工業㈱	外国人の住居選択時の課題に関する研究—新宿区大久保地域の実態をとらえて—
9038	大城戸健志*	積水ハウス㈱	
9073	軽米由希英*	㈱ユーラシア旅行社	
9155	高桑 渉*	IEグループ	大規模小売店舗立地法施行後の商業施設の出店実態と自治体の対応に関する研究—条例・要綱による規制の実態をとおして—
9007	厚川 和正*	大和ハウス工業㈱	
9008	阿部 賢一		
9109	坂田 圭介	㈱ペイントハウス	定期借家制度の利用促進に関する研究—賃貸人・賃借人・管理会社の意識をとらえて—
9115	佐藤 尚*	アジアパシフィックシステム総研	
9014	池宮麻衣子	未定	
9020	石渡 洋充*	日本大学大学院不動産科学専攻	「市民」協力員による簡易除却活動の実態に関する研究—政令指定都市と中核市の現状および横須賀市の実態をとおして—
9044	近江 大輔*	日本大学大学院不動産科学専攻	
9084	川本 秋作	日本大学大学院建築学専攻	
9045	大矢 隼人		P F I 事業における管理運営業務に関する研究—事業特性に応じた活用方策について—
8039	岩瀬 岳*		
9070	鍋木 達也*	藤和不動産	
9094	久保 英士*	東急リバブル㈱	校庭芝生化の整備・維持管理に関する研究—屋外教育環境整備事業補助費による実態をとらえて—
9099	小泉 佳典*	日本大学大学院不動産科学専攻	
9187	中沢 賢治*	未定	
1818	小池 裕之*	日本大学大学院不動産科学専攻	
1815	金沢 英幸	誠賀建設㈱	
1822	島田 一誠		
1826	田崎 卓也	明和地所	
1830	野中 昭博*	㈱東栄住宅	

斎藤公男教授・黒木二三夫(短大)助教授・岡田 章専任講師



9063	勝又 啓雄	横河工事㈱	多面体の特性と建築への可能性についての研究
9065	加藤 俊英	㈱丹青社	ガラスファサードの支持架構に用いるテンショントラスの基礎的研究
9069	金田 隆浩	㈱ケン・コーポレーション	習志野ドームにおける総括と今後の展開に関する考案～10周年を迎えて～
9101	小林 祥子		ドイツの歩道橋に関する研究～ミレニアムブリッジの位置付け～
9117	佐藤 裕子	日本大学大学院	透明二重空気膜構造の内部環境における基礎的研究
9141	杉田 京子	㈱ユニオン建材ビルダー	Tensegrity と Tensegric 構造の特性に関する研究～自然界と建築構造における相関性～
9147	住谷 剛	大成建設㈱	初期張力を考慮したストリングの評価及び選択に関する研究
9206	濱野 伸洋	日本大学大学院	張弦シザーズ構造の性状及び将来性の研究
9218	平野 貴紀	日本大学大学院	張弦梁構造の座屈性状に関する基礎的研究—模型実験及び解析による検討
9228	堀井 智紀	日本大学大学院	建築会館の可動式屋根の基礎的構造特性に関する研究～屋根架構に用いられているテンセグリック・トラス Type I の構造特性について～
9264	山本みどり	富士市役所	可展式ドームについて
1821	島倉 謙二	㈱池下設計	
1812	大久保博之	㈱長谷工コーポレーション	ドームの構造形態に関する基礎的研究～ジオメトリーと構成～

8098 菊地 孝史

ドイツの歩道橋に関する研究～シュライヒの橋を例～



清水五郎教授

9003	赤井 秀樹	千葉県警察	劣化した外装煉瓦の品質改善に関する研究
9006	浅川 勇嗣	セキスイハイム・ツーユーホーム山梨株	70年を経た理工学部旧1号館の耐久性に関する一考察
9039	大越 周一	コンピュータ専門学校	アンコール遺跡の画像処理—遺跡の劣化作用に関する分類と分析—
9059	櫻村 祐一	トステム(株)	} コンクリートの吸水性状に基づく品質評価に関する実験的研究
9142	杉原 正志	(株)フジタ	
9163	高橋 昌孝	(株)HOUZE	竹材の物性と用途の開発
9173	田中 宏明	大東建託(株)	建設リサイクルの現状に関する文献調査
9200	西脇 雄二	(株)奥村組	塗布防錆剤の性能評価法に関する研究
9217	平野 修也		建築緑化の現状調査と小さな提案
9225	藤村 元気	東京ミサワホーム	防水シート接着部の漏水試験方法に関する研究

白井伸明教授・森泉和人助手

9050	尾崎龍太郎	研究生(予定)	R C造柱・梁接合部の破壊モードに関する非線形FEM解析
9058	笠原 昭男	戸田建設(株)	粗骨材の力学的性質がコンクリートの破壊挙動に及ぼす影響
9082	河村 準	トステム(株)	複相構造を考慮したコンクリートのひび割れ解析に基づく破壊メカニズムの検討



関口克明教授・吉野泰子(短大)助教授・羽入敏樹(短大)専任講師

9049	小木未乃理	ダイヤモンドハウス	} 仮想音源分布の3次元アニメーションによる音場の可視化手法に関する研究
1813	小沢 純子		
9071	神屋 康平	(株)ペイントハウス	} 心理評価の変化に伴う自然風の解析
9072	鴨下裕一郎	セキスイファミエス東海(株)	
9138	菅原 啓太	(株)ゴールド・クレスト	} 揺らぎ(リズム)扇風機の複数制御による自然風の再現と心理量に与える影響
9156	高杉 仁美	(株)サンウエーブ工業	
9204	長谷川絵美	(株)ア・ファクトリー	} 危険予測からみた交差点における光環境のあり方に関する研究
9192	永井 俊介	日本大学大学院	
9237	祭田 渉		} 空間の響きが創出する音像の諸属性に関する研究
9208	林 千尋		
9222	藤井 康太	日本大学大学院	} 夜間商店街における光環境の在り方に関する研究
9246	本村 洋	日本大学大学院	
7215	平田 智子		} 照明による「着座」空間の有効利用に関する研究
1803	天田 弥生	イクス・アーク都市設計	
1833	羽生加奈子	(株)新昭和	} 方向別インパルス応答によるマイクロホン指向性のデータベース化に関する研究
1837	松井 瞳	エム・ワン	
1829	西水流大典	日本大学大学院	



関澤勝一教授・佐藤直樹助手

9104	紺野 智子	平安レイサービス	利用者の意識調査から見る学習空間の研究
------	-------	----------	---------------------



9119	塩澤 智恵	明和地所	オープンプラン型の小学校建築における教室空間の提案に関する研究
9123	柴田 儀晃	奥村組	潮来祇園祭禮を通したまちづくり
9158	高田 季代	マルシン建材	生活の場としての子ども主体の「地域づくり」に関する研究
9167	滝本 康喜	住友林業	外部・内部空間における人の行動から見るデザインについての研究
9212	原 絵里子		地域別色彩嗜好とその原因
9275	渡辺 絵美	日都産業	五感を豊かに刺激する都市づくり
1820	設楽 奈央	エーシーテック	草加市の中高生の居場所に関する研究
1835	廣海 弘幸	希望社	性格の形成と住環境の関係について
7227	星野 宏祥	住友建設	地域における区内の学校のあり方について

高宮眞介教授・佐藤慎也助手



9023	伊藤香穂里	日本大学大学院	横浜市のウォーターフロントにおける 景観構成に関する研究
9052	落合 正行	日本大学大学院	「コンバージョン」の使用例に関する研究
9133	社嶺 充	日本大学大学院	米国における建築プログラミングの概念・手法の研究
9140	杉浦 智也	(株)類設計室	建築の保存・再生における歴史の変遷の研究
9174	棚橋 麻実	(株)三輪設計事務所	露地の構成要素に関する研究—六茶匠にみる露地の歴史の変遷—
9184	道津 空人	日本大学大学院	現代日本のアトリウム空間の構成についての研究
9188	中田 幸宏	日本大学大学院	万国博覧会における日本館の歴史の変遷に関する研究
9239	三田村真希		コウハウジングのつくられ方の研究～『cohousing』の翻訳を通して～
9278	和田 篤	日本大学大学院	ファーレ立川におけるパブリックアートに関する研究
1834	林 幸希	(株)協立建築設計事務所	公立美術館における屋外展示空間についての研究—東京23区内の美術館に 対する調査をととして—
0816	後藤 祐介	未定	商店街の空き店舗対策モデル事業に関する研究—空き店舗の活用事例に見 る商店街の展望—



野村 歡教授・八藤後 猛助手

9010	荒木 保正	三井ホーム	家庭内における幼児の墜落事故防止に関する研究
9126	島田 恭利	スウェーデンホーム	
9231	前田 雄己	野村土地建物	
9241	宮崎 真	大和ハウス工業	高齢者に配慮した住宅の色彩・照明計画に関する研究
9092	久木田扶美枝		
9157	高田 朱実	NOCE	民間賃貸住戸に対する高齢者配慮の実態に関する研究
9107	酒井めぐみ	松下設備システム	
9135	荘野 力	中央住宅	
9150	關屋 憲裕	フルハウス	乳幼児の家庭内事故防止に関する安全意識調査の研究
9251	谷内 智美	東京セキスイファミエス	
1824	高橋 智子		
1828	富山 麻衣		



早川 眞教授・蜂巣浩生専任講師

9061	片桐 浩司	清水建設	太陽光発電の発電量予測ソフトの作成と適用
8245	朴 正宰		

9130	小島 裕	安藤建設	トレーサガスをを用いた換気性能評価実験
9202	野田 薫	オガワホーム	
9244	村瀬 孝道	日本大学理工学部研究生	高層事務所建物への自然換気の導入条件の研究—大型天井吹き出し口からの気流による温熱環境に関する被験者実験—
9203	野呂 崇子		
9210	羽山 宜陽	西松建設㈱	日本大学理工学部駿河台校舎の省エネルギーとCO ₂ 排出量低減の研究
9232	松岡 秀幹	セキスイハイム神奈川	
9236	松本 憲治		
9259	山崎 亨	住友林業㈱	
7008	阿部 直毅	不二サッシ㈱	
9226	古田 直之	日本大学大学院	高層事務所建物への自然換気の導入条件の研究—大気汚染質の鉛直分布—

半貫敏夫教授

9033	梅垣 仁志	大鉄工業㈱	南極昭和基地居住区周りのスノウドリフトに関する人工吹雪風洞実験
9054	小野 大輔	㈱長谷工アーベスト	
9074	河合 仁勝	西松建設㈱	材料特性のばらつきがH形鋼柱のP-Δ効果に与える影響
9125	渋谷 元洋	内野建設㈱	
9144	佐藤 祥史	大倉建設㈱	メタルウェハー式積雪重量計の計測誤差に関する数値解析
9186	仲里 卓也	日本ハウズイング㈱	積雪中に埋没した構造物へ作用する積雪沈降荷重の試算
1804	荒井 恵太	日本大学大学院	柱脚の弾塑性挙動を考慮したせん断型多層骨組の地震応答解析
1832	長谷部達也	大東建託㈱	H形鋼柱のエネルギー吸収能力に及ぼすP-Δ効果の影響



平山善吉教授・斉藤俊一助手

9026	井上 賢	㈱東栄住宅	日本における住宅の歴史に関する研究
9048	小城 和之	吉岡建設㈱	
9250	保道 宏征	㈱大気社	木造住宅に関する診断・改修方法と中古住宅市場についての研究
9056	寛田 智章	トステム㈱	
8305	山本 祐		過去を通してみる住宅産業の未来展望
9172	田中 朋春	積水ハウス㈱	
9176	谷口 利治	大和ハウス㈱	合板接着接合に関する基礎的研究
8304	山本 毅	櫻井工業㈱	
9272	若林 久人	大興物産㈱	
7232	前田 祐一	コマニー㈱	



三橋博巳教授

9040	大島 智史*	日本管財㈱	分譲集合住宅のライフサイクルコストに関する研究
9079	川崎 広人*	森本組㈱	木造住宅密集市街地における空地と隣家への着火所要時間の関係
9080	川隅 弘典*	旭化成ホームズ㈱	
9215	半田 良記*	東京都立大学大学院	環境政策と環境を重視した住宅開発に関する研究
9086	北村 敏彦*	日本大学大学院	
9276	渡辺 健*	日本大学大学院	不動産の鑑定評価に関する基礎的研究
0829	西村 栄一*	千葉大学環境システム学科	
9091	木元 隆広*		模型雪を用いた建物周囲の吹きだまりに関する研究
9093	楠木 直英	㈱ラックランド	横須賀市域の火葬場の都市史的研究
9153	外角精一郎	東武谷内田建設㈱	



9233	松川 純子*	三井不動産販売株	} 環境に関する計画作りにおける市民参加の研究
9254	山岸 絵里*	住友林業ホームサービス株	
5214	中村 哲也*		

本杉省三教授・佐藤慎也助手



9013	池永 泰孝	未定	アマチュアオーケストラ団体によるコンサート ホール使用状況について
9068	金山亜希子	大和ハウス工業株	図書館における自動コーナーについて—設置状況および利用状況に関する 調査研究—
9076	川上 恭輔	日本大学大学院	水回り機能から見る集合住宅における空間配置の構成形式に関する研究
9112	佐久間雄一郎	株現代建築研究所	新宿近郊エリアに立地するライブハウスの利用実態とその周辺環境につい て
9165	高部 茂生	東京大学大学院	行為分析と建物利用率の関係について—10代の学生の建物と行動意識に関 する調査—
9213	半澤 哲	未定	小劇場と小劇団の関連—集客に関する考察—
9265	横田 香苗	未定	劇場型多目的ホールにおける楽屋計画について—藤沢市民会館、鎌倉芸術 館の利用者から見た考察—
9266	横田 裕史	日本大学大学院	ライブハウスにおけるロッカースペース及び導入外部空間の利用状況と可 可能性に関する研究

若色峰郎教授・渡辺富雄専任講師



9017	石川 征夫	未定	フランク・ロイド・ライト研究 —家具と装飾デザインにおける有機的建築論について—
9057	笠井 雄	日本大学大学院	都市の景観に関する研究—新宿・秋葉原・谷中の建物階層ごとのマッスと ヴォイドの関係について—
9087	北村 直也	進学予定	新しい集合住宅のかたち—今までの公団住宅と岐阜県営住宅の比較—
9122	柴田 直周	日本大学大学院	コミュニティ施設の変容について—生涯学習関連施設の室構成からみた考察 —
9129	清水 建矢	日本大学大学院	次世代ワークプレイスの展望
9137	須賀 健	積水ハウス株	歴史的地区における街路空間の構造に関する研究—川越の伝統的建造物群 保存地区の街路を例に— Case Study—
9152	早田 倫人	日本大学大学院	総合スポーツクラブ・生涯スポーツ社会実現に向けた学校体育施設開放の 研究
9185	内藤 正之	未定	伊東豊雄研究—設計手法を通しての作品分析—
9189	中鶴耕一郎	トステム株	学校建築の再生保存・転用に関する研究—廃校の利用状況と実態を通して —
9201	根本 直樹	日本大学大学院	芸術系ボランティア団体の活動実態と活動施設の可能性に関する研究—横浜 市を活動拠点としているボランティア団体4事例を通して—
9207	林 大輔	株エレファント・コミ ュニケーションズ	野球場の多目的化に関する研究—近年の日米野球場の比較を通じて—
9209	林 雄樹	未定	高度経済成長期に建てられた都市型公営住宅の再活用に関する研究
9243	村瀬 聡	日本大学大学院	低層集合住宅におけるコモンスペースに関する評価—配置計画から生じる 住環境・視線等について—
9267	吉川 拓也	日本大学大学院	都市中心部のオープンスペースにおけるエレメント調査

今村雅樹助教授



9018	石崎 哲也	日本大学大学院	品川駅における利用者の移動に関する研究
9089	木村 聡子	日本大学大学院	小学校におけるオープンスペースと空間配置について
9143	鈴木 咲子		虚住論
9145	鈴木智香子	日本大学大学院	これからの保育プログラムと空間提案—荻窪での駅前保育をケーススタディとして—
9146	須藤 猛	包建築設計工房	水族館における展示の空間演出
9183	豊島 裕樹		集合住宅におけるコミュニティスペースとしての共用廊下の可能性
9197	西崎 暢仁	法政大学大学院	大型商業施設の新しい商業コンセプトとデザイン
9214	半田 満	日本大学大学院	リノベーションによるアートセンター再編に関する研究

宇杉和夫助教授



9005	秋津 修平		「ライトコートを持つ集合住宅」に関する調査・提案 ～半ライトコートをもつ市営住宅団地の建て替え計画～ 住まいミュージアムとしての住宅展示場に関する研究
9168	武居 綾	(株)ハウゼ	新しい世代の東京の原風景のための空間システムの提案に関する研究
9221	藤 悟志		これまでの家族型からみる家族の繋がりについての研究
9242	宮田 智大	日本大学大学院	精神障害者の地域支援システムに関する研究—東京都におけるユーザー動向および行政のかかげる社会復帰動向と実態との比較—
9252	矢幡 匡崇	日本大学大学院	〈ナカニワ型多様なコモンスペース住宅〉と住宅地の開発方式に関する研究
9261	山田 真揮	日本大学大学院	住まいにおける子供の成育環境とコミュニケーションについて
9277	渡辺 稔	大倉建設(株)	埼玉県内住宅環境整備（住宅改修）データにおける住宅内・敷地内段差の形態に関する研究
1838	宮内 悠子		
8042	植松 善洋	日本大学大学院	オランダ現代建築の空間構成の特徴について—土地の記憶の復活：現代建築に用いられたスロープと土地の関係—

岡村武士助教授



9043	大谷 卓	第一ヒューテック(株)	自然素材の構造物への応用に関する基礎的研究 —複合材の異なるコンクリート（NMC）の強度—
9085	北川 大輔	スウェーデンハウス(株)	
9095	熊代 剛	未定	
9247	本山 慎也*	南富士産業(株)	
9046	岡本奈津子	大成建設(株)	自然素材の構造物への応用に関する基礎的研究 —複合材の異なるコンクリート（NMC）の物性・微視的観察—
9248	桃田由佳里	未定	
9249	森田 貴良*	塩谷建設(株)	
9271	米川 陽子	未定	

石田道孝専任講師



9021	石綿 理恵	(株)エム・シー・コーポレーション	既存特別養護老人ホームにおける ユニットケア型介護体制への改修についての考察
9102	駒木 智博	南富士産業(株)	福祉関連地域利用施設の複合化に関する研究—人口10万人以上の自治体、東京都特別区への郵送アンケートから—
9164	高橋 義晴	内野建設(株)	福祉関連地域利用施設の複合化に関する研究
9171	田中 和仁	内野建設(株)	繁華街のバリアフリー環境整備に関する研究
9194	並木 剛史		鉄道駅におけるサイン計画の基礎的研究—東京駅をケーススタディーとして

- 9227 武士俣良史 ホーミング㈱ 住宅におけるユニバーサルデザインの実現に関する考察
 9255 山際 貴子 コミュニティー施設の利用実態とその地域形成に関する研究—海老名市における利用実態と利用者意識調査より—
 1817 北岡 広子 日本調理㈱ 高齢者・障害者を対象とした民間フィットネスクラブの現状と今後のあり方に関する考察

柳田 武専任講師



- 9028 岩井早矢香 他大学大学院進学 空間構成要素からみた街路空間の特性について
 —ケーススタディ：中野区4丁目の場合—
 9034 蛭沢 秀樹 現代科学からみた「家相学」の妥当性について
 9037 大石 雄一 都市景観の構成要素としての色彩に関する研究
 9060 春日 学 集合住宅における住戸配列のアルゴリズムに関する研究—「日照」を評価基準として—
 9195 楢原 元 米国留学 ディスプレイ・デザインの現状と今後について
 9199 西原 雄一* キャプラン㈱ 小規模LANの構築と管理上の問題点について—建築CAD室における実践—
 9253 矢部 宣大 ペイントハウス㈱ 地域に開放された小学校のあり方について—ケーススタディ：沼津市立第四小学校の建て替え計画—
 9260 山崎佑二郎 英国留学 日本庭園とイングリッシュガーデンの特徴について

小石川正男(短大)教授・田所辰之助(短大)専任講師・森田吉晃(短大)専任講師



- 9256 山口幸一郎 日本大学短期大学部建設学科副手 E.G. アスブルンドの建築作品にみられる造形の変化について—造形要素／様式という指標による建築作品の読解
 1823 十文字 聡 日本大学工学部大学院 ベデストリアン・デッキをもつ駅前広場についての研究—ストリート・ファニチャーと駅利用者の動線の関係
 8207 中野 貴之 チャールズ・イームズのデザインにみられる共同作業の様態とその可能性について

中山 優(短大)助教授



- 1807 石井 明男 日本大学大学院
 1816 川村 正樹
 8096 川島 理男 日本建設㈱
 8316 星山 満
 } 軸筋の付着を除去したRC柱の力学的挙動に関する実験的研究

短期大学部

学生番号	氏名	進路・就職先	所属ゼミ	学生番号	氏名	進路・就職先	所属ゼミ
1001	青山沙葵子	理工・海建	中山	1051	小林 方美	理工・建築	黒木
1003	安藤 誉	理工・建築	田所	1052	近藤 直樹	理工・海建	岡田
1005	家城 潤子	東放学園専門学校	羽入	1053	後藤あゆみ	理工・土木	中山
1006	石田 和広	千葉工大・建築	下村	1054	坂根 義典	理工・海建	田所
1007	石田 敏之	自営（建設業）	下村	1055	櫻田 志穂	未定	吉野
1008	石橋 剛	未定	田所	1056	佐々木智也	理工・海建	森田
1009	石渡 覚	理工・建築	小石川	1057	佐藤 功太	理工・海建	黒木
1010	磯崎 洋才	理工・建築	田所	1059	椎名 啓介	理工・土木	吉野
1011	伊藤 淳史	窪田建設㈱	小石川	1060	椎名 智恵	理工・建築	中山
1013	稲垣 直秀	理工・海建	田所	1061	鳥崎ひとみ	未定	岡田
1014	井上 昇美	㈱池下建設	岡田	1062	島瀬沙弥香	理工・建築	中山
1016	上村 啓太	中央計装㈱	下村	1063	島田 昇	生産工・建築工	黒木
1017	牛澤 千佳	理工・建築	小石川	1064	清水 滋	理工・土木	森田
1018	榎本 郷	理工・海建	下村	1065	正司 和将	理工・海建	黒木
1019	大木 雄太	宇都宮メディアアーツ専門学校	内藤	1066	白戸 瞬	杉山建設工業㈱	羽入
1020	大熊 良輔	理工・建築	羽入	1067	新藤 祐亮	理工・建築	中山
1021	大園 拓央	理工・建築	吉野	1069	助川今日子	未定	吉野
1022	大西 利宗	神奈川大学	下村	1070	須崎 晴菜	理工・土木	吉野
1023	岡部 将司	理工・海建	羽入	1071	鈴得 和幸	理工・海建	中山
1024	小川 雄	理工・建築	田所	1072	鈴木 和磨	東京電機大学 情報環境デザイン学科	羽入
1025	荻原 雅樹	未定	下村	1073	鈴木 健司	理工・海建	田所
1026	落合麻理恵	未定	吉野	1074	鈴木 亮佐	理工・海建	中山
1027	小野 公輔	未定	森田	1075	関口 邦博	理工・海建	中山
1028	小又 敦	消防庁	森田	1076	仙波 佑介	生産工・土木	中山
1029	金子 千秋	理工・海建	羽入	1077	平 清香	理工・海建	黒木
1030	亀井三由季	日本プロバテナー㈱	中山	1079	高橋 亮多	工学部・建築	黒木
1031	加茂 恵子	未定	岡田	1080	高宮 佑一	未定	吉野
1032	川原 賢	理工・土木	森田	1081	高山 智以	理工・建築	黒木
1033	川畑 圭司	正和興業㈱	羽入	1082	田島 拓未	理工・土木	内藤
1034	岸良 晃平	千葉工大・建築	中山	1085	谷畑佐和子	理工・建築	吉野
1035	木曾 耕平	理工・海建	小石川	1086	田村 紘子	理工・建築	羽入
1036	北村 真理	㈱アットホームセンター	羽入	1087	千葉 義弘	工学部・建築	森田
1037	桐山 達郎	理工・土木	森田	1089	土屋 友香	理工・建築	吉野
1038	草村 清香	理工・建築	羽入	1090	手柴 昭子	日本動物看護士学院	黒木
1039	工藤沙由可	理工・建築	中山	1091	寺門亜希奈	理工・建築	羽入
1040	久保田 武	理工・建築	小石川	1092	寺田 尚生	理工・土木	森田
1042	倉沢 健一	理工・建築	中山	1093	戸川 靖世	理工・土木	吉野
1043	倉林龍之介	未定	内藤	1094	徳竹由紀子	理工・土木	黒木
1044	慶野 正紘	東京デザイナー学院	黒木	1095	中塩 絢	理工・建築	下村
1045	剣持絵梨菜	理工・建築	中山	1096	中島 礼那	東京都歯科医師会付属 歯科衛生士専門学校	岡田
1046	小島 誠司	理工・海建	黒木	1097	中村 勝清	自営（建設業）	中山
1047	小中 亮平	理工・建築	黒木	1098	中山 裕司	神奈川大学	内藤
1048	小橋 玄	未定	内藤	1099	永瀬 浩一	未定	岡田
1050	小林 寛幸	理工・建築	田所	1100	西原智恵子	理工・海建	黒木
				1101	根本 淳史	橋本健二建築設計事務所	田所

1102	信澤 匠	理工・海建	小石川	1123	村林 恵理	中央工学校	下村
1103	橋部 志ほ	理工・海建	吉野	1124	茂木 尚子	未定	黒木
1104	橋本 高明	理工・海建	田所	1125	森田 香織	理工・建築	羽入
1105	橋本 隼人	未定	羽入	1126	谷田貝利幸	理工・海建	岡田
1106	花澤 史朗	未定	田所	1127	梁取聖一郎	未定	岡田
1107	林 有由美	未定	吉野	1128	矢部 義治	AMVOX	下村
1108	春永有梨子	理工・建築	羽入	1129	山口 享	小野工務店	黒木
1109	藤澤 美華	理工・建築	黒木	1131	山田 傑	理工・建築	羽入
1110	藤平 真一	理工・建築	田所	1132	山本 章	理工・建築	羽入
1111	八月朔日ゆり	東京デザイン専門学校	羽入	1133	山本 栄悟	理工・社会交通工	下村
1112	前田 一成	理工・土木	森田	1134	吉岡 宏光	理工・土木	岡田
1113	馬瀬 充朗	理工・建築	中山	1135	吉田 昌平	未定	吉野
1114	町田 諒子	理工・海建	吉野	1136	吉田 春樹	中央工学校	吉野
1115	松崎 温子	理工・建築	羽入	1137	吉野 正一	理工・海建	中山
1116	松丸 里美	日本デザイナー学院	吉野	1138	吉村 雄一	㈱夢真	内藤
1117	松本 広一	理工・建築	小石川	1139	梁 麗容	Little Garden (英語講師)	黒木
1118	美寿見 一	理工・建築	中山	1140	渡辺 顕夫	理工・海建	森田
1120	宮坂 友輔	理工・建築	中山	1142	渡辺 拓也	未定	内藤
1121	向山 達哉	理工・海建	内藤	1143	渡辺 秀樹	理工・海建	岡田
1122	村岡 亮	生産工・建築工	岡田	0057	齋藤真里奈	㈱齋藤建築設計事務所	岡田

■不動産科学専攻の創設10周年を記念して、3月14日、アルカディア市ヶ谷において「不動産科学専攻10周年記念パーティ」が開催された。

■平成14年度の卒業式が3月25日挙行された。建築学科の卒業生は274名、大学院建築学専攻博士前期（修士）課程修了は59名、同後期課程修了3名、不動産科学専攻博士前期（修士）課程修了7名、同後期課程修了1名であった。

■関澤勝一教授が3月11日、平山善吉教授と佐藤直樹助手が3月31日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

■4月1日付の人事で、根上彰生助教授が教授に、中山優短大助教授が短大教授に昇格された。

■4月1日付で新しく建築教室のメンバーになったのは、友澤史紀教授（建

教室ぶろむなード

築材料)、横河健教授（建築設計）、川元美奈子副手、木内厚子副手、宮里直也副手の5名である。

■非常勤講師の新旧交代は以下の通りである（敬称略）。

〈新任〉

斎藤 隆（建築学特別講義Ⅱ）

田中 信義（建築学特別講義Ⅱ）

池田富士男（建築学特別講義Ⅲ）

五十田 博（一般構法Ⅱ）

榎本 弘之（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

川口 英俊（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

高階 澄人（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

〈退任〉

岸 明（一般構法Ⅱ）

前野 崑（建築史Ⅱ）

アストリッド クライン

（建築設計Ⅲ、設計演習Ⅰ）

川口とし子（建築設計Ⅰ、Ⅱ）

田島 夏樹（デザイン基礎Ⅱ、建築設計Ⅰ）

■4月1日付で新しく短大建設学科の新メンバーになったのは、山口幸一郎副手である。

■短大建設学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通りである（敬称略）。

〈新任〉

野村みどり（福祉住環境概論）

上利 益弘（視覚伝達デザイン）

〈退任〉

広部 正久（建築実験Ⅲ）

池上 雅之（視覚伝達デザイン）

●駿建目次

(2003.4 Vol.31 No.1 通巻123号)

表紙「駿河台校舎1号館内観」

設計：高宮真介（駿河台1号館建設委員会）+佐藤総合計画

撮影：北嶋俊治

新たな出発の時にあたって！

建築学科履修要項

短期大学部建設学科履修要項

専門科目使用教科書並びに参考書

新任教員紹介

2

4

10

12

16

平成14年度建築学科就職状況

平成14年度各賞受賞者一覧

修了生・卒業生就職先・研究課題一覧

教室ぶろむなード

19

24

27

40

『駿建』

発行者・片桐正夫：千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724 <http://www.arch.est.nihon-u.ac.jp>

■編集委員：本杉省三・岡村武士・根上彰生・重枝 豊・渡辺富雄・石垣秀典・佐藤慎也・星 和磨

■印刷：奥村印刷㈱

1102	信澤 匠	理工・海建	小石川	1123	村林 恵理	中央工学校	下村
1103	橋部 志ほ	理工・海建	吉野	1124	茂木 尚子	未定	黒木
1104	橋本 高明	理工・海建	田所	1125	森田 香織	理工・建築	羽入
1105	橋本 隼人	未定	羽入	1126	谷田貝利幸	理工・海建	岡田
1106	花澤 史朗	未定	田所	1127	梁取聖一郎	未定	岡田
1107	林 有由美	未定	吉野	1128	矢部 義治	AMVOX	下村
1108	春永有梨子	理工・建築	羽入	1129	山口 享	小野工務店	黒木
1109	藤澤 美華	理工・建築	黒木	1131	山田 傑	理工・建築	羽入
1110	藤平 真一	理工・建築	田所	1132	山本 章	理工・建築	羽入
1111	八月朔日ゆり	東京デザイン専門学校	羽入	1133	山本 栄悟	理工・社会交通工	下村
1112	前田 一成	理工・土木	森田	1134	吉岡 宏光	理工・土木	岡田
1113	馬瀬 充朗	理工・建築	中山	1135	吉田 昌平	未定	吉野
1114	町田 諒子	理工・海建	吉野	1136	吉田 春樹	中央工学校	吉野
1115	松崎 温子	理工・建築	羽入	1137	吉野 正一	理工・海建	中山
1116	松丸 里美	日本デザイナー学院	吉野	1138	吉村 雄一	㈱夢真	内藤
1117	松本 広一	理工・建築	小石川	1139	梁 麗容	Little Garden (英語講師)	黒木
1118	美寿見 一	理工・建築	中山	1140	渡辺 顕夫	理工・海建	森田
1120	宮坂 友輔	理工・建築	中山	1142	渡辺 拓也	未定	内藤
1121	向山 達哉	理工・海建	内藤	1143	渡辺 秀樹	理工・海建	岡田
1122	村岡 亮	生産工・建築工	岡田	0057	齋藤真里奈	㈱齋藤建築設計事務所	岡田

■不動産科学専攻の創設10周年を記念して、3月14日、アルカディア市ヶ谷において「不動産科学専攻10周年記念パーティ」が開催された。

■平成14年度の卒業式が3月25日挙行された。建築学科の卒業生は274名、大学院建築学専攻博士前期（修士）課程修了は59名、同後期課程修了3名、不動産科学専攻博士前期（修士）課程修了7名、同後期課程修了1名であった。

■関澤勝一教授が3月11日、平山善吉教授と佐藤直樹助手が3月31日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

■4月1日付の人事で、根上彰生助教授が教授に、中山優短大助教授が短大教授に昇格された。

■4月1日付で新しく建築教室のメンバーになったのは、友澤史紀教授（建

教室ぶろむなード

築材料)、横河健教授（建築設計）、川元美奈子副手、木内厚子副手、宮里直也副手の5名である。

■非常勤講師の新旧交代は以下の通りである（敬称略）。

〈新任〉

斎藤 隆（建築学特別講義Ⅱ）

田中 信義（建築学特別講義Ⅱ）

池田富士男（建築学特別講義Ⅲ）

五十田 博（一般構法Ⅱ）

榎本 弘之（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

川口 英俊（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

高階 澄人（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

〈退任〉

岸 明（一般構法Ⅱ）

前野 崑（建築史Ⅱ）

アストリッド クライン

（建築設計Ⅲ、設計演習Ⅰ）

川口とし子（建築設計Ⅰ、Ⅱ）

田島 夏樹（デザイン基礎Ⅱ、建築設計Ⅰ）

■4月1日付で新しく短大建設学科の新メンバーになったのは、山口幸一郎副手である。

■短大建設学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通りである（敬称略）。

〈新任〉

野村みどり（福祉住環境概論）

上利 益弘（視覚伝達デザイン）

〈退任〉

広部 正久（建築実験Ⅲ）

池上 雅之（視覚伝達デザイン）

●駿建目次

(2003.4 Vol.31 No.1 通巻123号)

表紙「駿河台校舎1号館内観」

設計：高宮真介（駿河台1号館建設委員会）+佐藤総合計画

撮影：北嶋俊治

新たな出発の時にあたって！

建築学科履修要項

短期大学部建設学科履修要項

専門科目使用教科書並びに参考書

新任教員紹介

2

4

10

12

16

平成14年度建築学科就職状況

平成14年度各賞受賞者一覧

修了生・卒業生就職先・研究課題一覧

教室ぶろむなード

19

24

27

40

『駿建』

発行者・片桐正夫：千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724 <http://www.arch.est.nihon-u.ac.jp>

■編集委員：本杉省三・岡村武士・根上彰生・重枝 豊・渡辺富雄・石垣秀典・佐藤慎也・星 和磨

■印刷：奥村印刷㈱